増補名所方角抄　上中下

名所方角抄 宗祇編

都留文科大学附属図書館所蔵

増補名家方簡抄　上目録

山城　京邊名家

東之方　初丁目
辰巳方　三丁目
未申方　四丁目
酉之方　七丁目

戌亥方　八丁目
北之方　十丁目
丑寅方　十一丁目
海中分　十四丁目

上目録終

[illegible]事と云よなき流れよもとく[illegible]より載[illegible]とおもしきゑいおそれもおりふしいまだ[illegible]雙紙よむかひて見ぬ世の人の有様を見[illegible]る[illegible]事をあまりおもしろうかと清まる[illegible]すれ[illegible]くの百乃[illegible]さとの[illegible]この比まで着よりあしらひ人乃[illegible]師[illegible]して自ら[illegible]身を清[illegible]と書乃[illegible]家[illegible]方[illegible]連歌乃宗匠宗祇[illegible]法師乃[illegible]まで秋津嶋乃[illegible]事を[illegible]なる[illegible]あられなる湊[illegible]の[illegible]

翫ぶべき書なれど專ら今世におこなはるゝ宝よ達
ことさら賤しき事なるを一筆にひき出して惑
の名所を知りゆかしく思ひて四方の山の景気を見る事
紙上の遊びとなれるはまして此人の手習草紙さ
を綴り物せしめ人々を專ら書き草子をもちみちぬ
の画のみならず所々の名所を綴り人々の為にこゝにおくり
絵書入ておもしろく埋草の二字をとりて名つく人も
かく接ふよちうつとめ纔かに彼の目盲ふたつの絵は
絵ひをおぼれねそうひかれど和歌の道は神と
ゆかしまれ人との縁は是のこれは始のゆかしきとひ
きを乾よ扉ゑまるとのかし

藤長子

京名所古名所

東之分

白川　瀧　野　里　按ずるに讀也　京より八三条の東なり
南禅寺のあたりなり則て寺の門のあたりより出て流るゝなり

古今
白川のしらずともいはじ底清み流れて世々にすまんとおもへば　平貞文

後撰
白川の滝のいとみまほしけれどみだりに人はよせじものをや　中務

岩倉　小野の　山　南禅寺の上なり白川の東なり岩倉山
とて聖護院之又京の北にもあり同名所なり南の右
大和国の名所なり見るべし

新後拾遺
花落ちてそれとも見えず雪と見えて小野の林に春のくれん　為基

粟田山　粟田口といふ所なり是より三条坂なり粟田坂より
知し十禅寺より花頂院のあたりをいふ也をのあれ

古今
そま川よくゝのあり
うれしさをいよそわとのゝそのれ引きそま川山人菱葉のみま

[illegible]

山階里（やましなのさと） 天智之郷乃名なり粟田口より桐坂へ出る北也

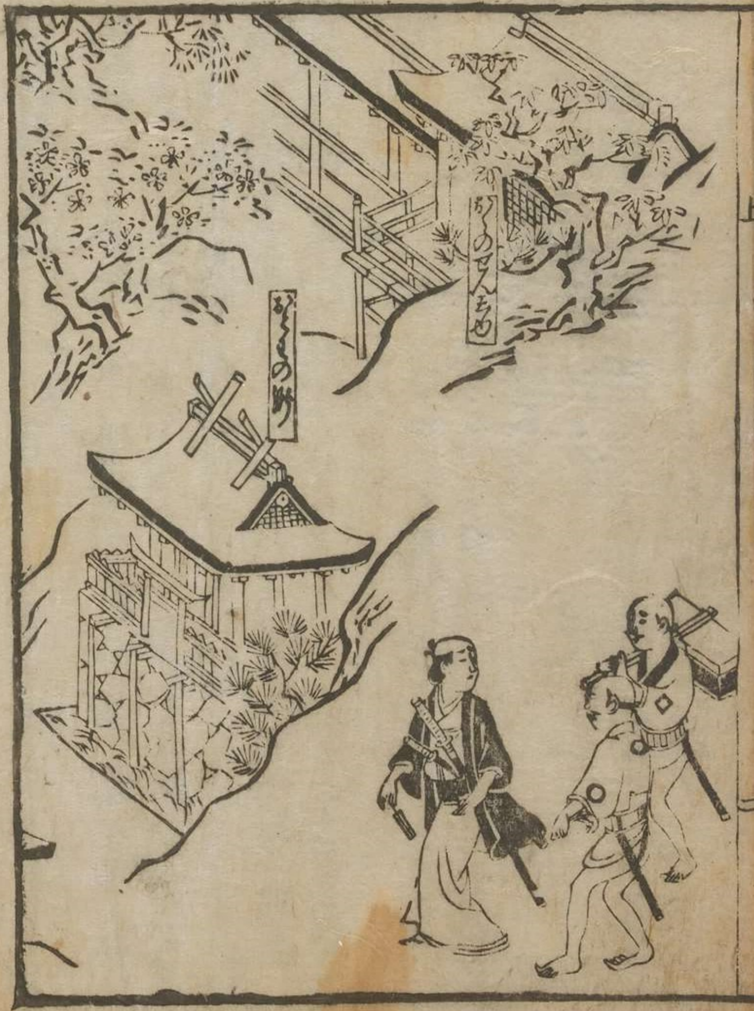
後撰 [illegible] [illegible]宮乃[illegible]ともいひ[illegible] 三条右大臣
[illegible]の[illegible]

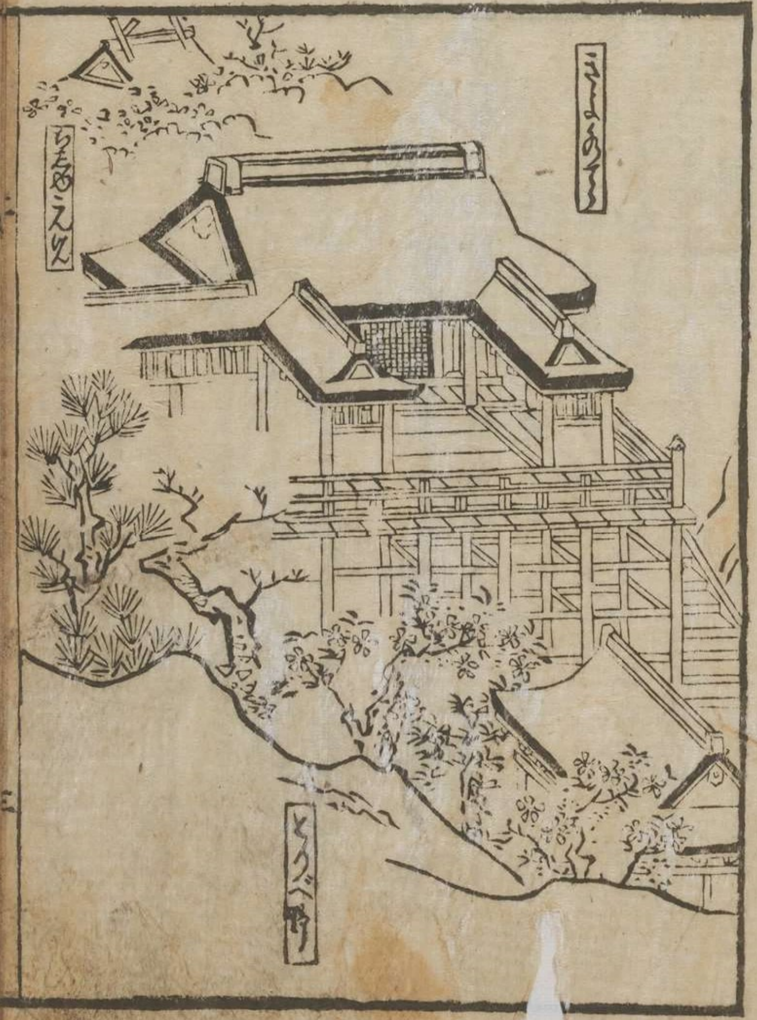
音羽（おとは） 山 川 瀧 里 [illegible]讀むとも桐坂乃関よりへみなみに
あさかなり又清水をもいふなり又此山の西さら坂
乃中程に音羽の瀧と云同名也音羽北に見え
おとはおとしよめり

桐坂乃[illegible]のあたりにて清水音羽乃山の[illegible]なり花
花山（くわさん） 清水乃東なり 遍昭乃旧跡なり又花頂（くわちやう）院とも
いふ一説花山[illegible]清水より
鏡山といふ[illegible]花山に近し花山よりも北[illegible]
乃[illegible] 近江 山城 のさかひ 三十四丁に鏡山あり

古今 よそにみてかへらん人にふぢの花はひまつはれよ枝はをるとも 遍昭
[illegible]枝[illegible]讀り花山乃[illegible]と云所なり

山階乃うちなり
栗栖野（くるすの） 小野 池 醍醐（だいご）乃西にあり山乃ふもとなり
京よりは辰巳乃方によりて[illegible]なり池は勧修寺乃
池といへり延喜乃御字氷池といふなり
續古今秋上 見わたせば[illegible]栗栖の[illegible] 権中納言長方
篠（さゝ）乃濃 大乃ふもとといふなり 京より二里あまり
あり山階乃うちなり
清水（きよみづ） [illegible]
[illegible]梅と[illegible]
ましまし[illegible] 侍る[illegible]
[illegible]観音
[illegible]山乃[illegible]
[illegible]寺[illegible]
[illegible]人


おくのせんちめ
おくの院


きよみづ
ちしゆごんげん
とりべ野

送ふへ清水乃南にあつて此乃あるを清水乃坂へ出寺

日吉社（ひよしのやしろ） 七月より玉祭を京乃人まうでる 山王乃末社也 新日吉（いまひよし）とも申也 清水乃南也

千載釈教 紀姿する橋乃方よりやし宮日吉の風そ吹なる 中原師尚

稲荷（いなり） 山 嶽 坂（さか） 瀧 杉 楓 讀多し 社は森なり

こうけしの二月初午也 新日吉にて縫殿なとあり

みなこゝなり

拾遺雑恋 瀧乃水かへりてすまはいなり山七日のほれるしるしと思はん 讀人しらす

深草 山 聖 里 深草山ともいふあり 山深くさとゝ也

鶉（うつら） 鷺（さゝき） 橋讀り 藤乃森といふは深草乃うちにあり

いなり乃南也 九条乃西なり

古今哀傷 深草乃野辺の櫻し心あらはことしはかりは墨染にさけ 岑雄

同雑 年をへてすみこし里を出ていなはいとゝ深草野とやなりなん 業平

一 辰巳分

伏見（ふしみ） 山 里 沢 津 深草（ふかくさ）乃南里也 深くさへつゝきあり 又菅原（すがはら）

乃伏見とも云 又大和にあり 伏見は沢ともいふ是あり 作田（つくりだ）も

あし見よりぬるなり

新拾遺 冬乃夜のさひしき伏見の里人はよそにそきゝし沢のよるなる 兼好法師

木幡（こはた） 山 里 関 河 ちかし 馬 かへてまてなとよめり

ひとつ川とも云 木幡乃里ちかき小河也 橋をも讀也 伏

見乃ひかしなり

拾遺雑恋 山城乃木幡の里に馬はあれとかちよりそくる君を思へは 人丸

笠取（かさとり）山 醍醐（だいご） 山乃南より木幡乃東也 大山なり 花 又紅葉

紅葉（もみぢ） さゝれとも讀り 宇治（うぢ）を遊

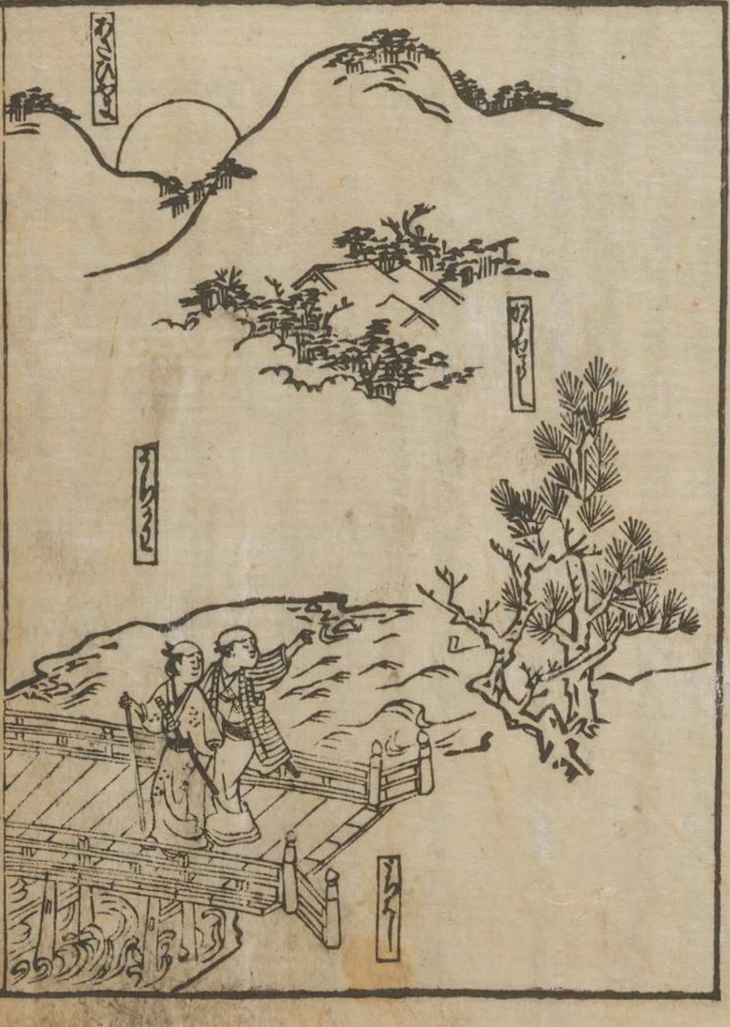
古今秋 あめふれと露ももらしを笠取乃山はいかてか紅葉そめけん 元方

あめふるを笠取山乃紅葉のあめかくよその袖ぬらしなり

宇治（うぢ） 山 里 河 橋 河をいふあれ 橋を東西へかけたり 山城の

瀬（せ）尾（が）大和日山よりの東也 又抜乃川 流るゝ槙（まき）の嶋 大橋より小
橋ゟ渡 岡屋乃名所なり 又此所（えびす）宇治と云 宇治と本
橘乃中島也 大椋（おほくら）乃森へ 江有之 此末を宇治乃関也
名所を以ても宇治と云 小倉（をぐら）の三里なり 稲荷（いなり）乃山乃
間（あひ）に宇治乃つゞきの宇治川を
近江の瀬乃なかれより来る淀へ（流）出て宇治と
尾越（こえ）の宇治乃花園を秋なり
古今秋下
げに唐衣（からころも）たつ日ハきかじ朝露のおきてしゆけばけぬべきものを　法師
竹田（たけだ）此辺 淀より東伏見乃南なり 丸木也よりを
已乃方なり 里也あり
続古今秋上
紅葉せぬ常盤の山に住む鹿はおのれなきてや秋をしるらん　読人不知
鳥羽（とば）山田 上里 東 秋乃山 風也 有乃の名所
続後撰秋下
鳥羽田（とばた）の面よりちかし 京より一里あまり淀よりさきの
雪本はらふ風の月も見えてあかき秋田の里にしきの川　後鳥羽院

淀（よど）河 渡 橋 淀さとも 大里 郡
古今恋四
淀川のよどむと人ハ見るらめど流れてふかき心あるものを　読人不知
美豆（みづ）の上野 淀杜 淀牧（まき） 淀よりも南也 庵にして
ほとゝぎす川の上野の淀のまきの宿りにかゝる夕暮れのそら　順徳院
八幡（やはた）山 男山共云 岩清水乃宮 山乃半に在之 岩清水（いはしみづ）
と云ことの字也 杉坂よりも岩清水よりめぐりの宿
禅井 鳩峯 大すじ淀より東南より三里也 高雄より南なり
名所之八幡の前に流るゝ男山の下に女郎（をみなへし）花乃 紀貫之
続後撰
おそろしくまねく男山の立ち出る風の 後鳥羽院大嘗会
古今秋上
女郎花（をみなへし）うしと見つゝぞ行過る男山にしたてりと思へば　布留今道
納所（なつしよ）里 渡 あそこ 荒（あら）より京より南也
続後撰
やましろの淀乃若菰かりにだに来ぬ人たのむ我ぞはかなき
そのくゝりくゝられ下鳥
木津（きづ）川 里 渡 此川を泉川とも 木津乃里との名也



かれなる河ハ木津といひ河乃ミなミ之
（名所）泉川（いつミ） 木津は近し 鹿背（かせ）山 瓶原 此所一宿ありて世
山を神童寺といふ 泊瀬よりも此方乃名所なりと記
より南ハ金峰山へ乃順なり 泊より長谷寺
といふ所を越て泊乃里と申すなり 長谷寺と云
所ハ是より京より奈良まで九里なり
ひさしまて十六里あり
（古今読）都出て今日みかの原泉川 川風さむし衣かせやま 貫之
（名所）松乃森 原 泊山 清水
（後撰）松山の嵐の風のさむけれハ衣かせをくるかあつ□
黒田小野 棗 松を尾 清水 清水 黒田
乃小野より泊瀬わさく入り京よりハ五里あり
（明玉集）山城乃黒田の杜のいまも見えくる月影 藤原清輔
未申分

神南備森 山崎といふ所にありやしろのあとなし大和にも有

（拾遺）[illegible] 神南備乃森 貫之

神なびの山を丹後にありと又神なびの三室といふは大和也

山崎の西京より三里ばかり山中に久我といふ所ありそこら

乃もりの名所なり

うちむれてこゆる人なき[illegible]

水無瀬 尾上の里 河菜 紅葉 浅茅 木陰 などと読し所

まちかし猶ここ山より三里そ南にあたりあり

（古今）[illegible]

西之分

桂河 里有 七条通之西にありといふ桂乃里也

小倉橋 川よりは橋ありけりとよめり

（拾遺 秋）[illegible]大井川[illegible] 忠岑

大原野 九条乃西よりのむかひに有 花乃名所也

御幸ありし時勝乃清水あり小塩乃大原野にも勝乃清水

あり

（古今 雑上）大原やをしほの山もけふこそは神代のこともおもひいづらめ 業平

小塩山 大原乃うちにあり京より四里ばかりあり春日の社

あり業平乃墓 花乃寺 西行乃此所にて出家といふ所有

よしみねといふも此山乃ふもとにありいまはこれも大原乃内也

鷺坂 鷺坂といふも此西乃岡乃名也

葉室里 [illegible]大原よりすこし南也 小塩乃西にあり[illegible]桂川へ

此方北へ出ては京よりは南なれども遠く方をされ

ども[illegible]より西にあたれる[illegible]

見えてあり 嵯峨より此所を南とせよし

松尾 神主之 葉室より北にあり 社は東向なり

万代を松乃尾山のかげしげみ君をぞいのるときはかきはに 康資王母

衣手森 松尾とおなし山乃中にあり

続拾遺 おりはへてまほるの衣ハ蝉乃羽乃ひとへに白と[illegible] 為氏

梅津川（ひかし[illegible]）是ハ嵐山の風まて出て[illegible]家まて乃より

里 渡 宮（梅乃宮とも云）松乃尾より八丁之北にあり 西渡し

松乃尾乃前を流るゝ梅乃宮乃前をとほり流き[illegible]

とふ[illegible]まつの[illegible]さかなり

拾遺 雑 名のミして[illegible]梅津川の[illegible]をとれハ[illegible]

ねさひて[illegible]梅乃[illegible]流[illegible] よみ人不知

大井川（おほゐ）かつら 大 入江 筏（いかた） 紅葉 渡り 戸無瀬（となせ） 梅津

あらし山を[illegible]之乃川の[illegible]清滝川[illegible]

尾山をうかれ[illegible]あらし山の東の麓[illegible]へなかれて

清滝 戸無瀬 大井 梅津 桂川など[illegible]

なかれて[illegible]淀川と[illegible]大井と梅津乃[illegible]

又[illegible]亀の尾とあらし山との間を[illegible]西

より[illegible]流出て[illegible]桂川[illegible]

かれより[illegible]天龍寺之前[illegible]渡月橋と云橋有

天龍寺ハ亀乃尾の麓にあり 橋乃南あらし山のふもと

法輪寺あり 又[illegible]橋乃ふもとより龍門と云[illegible]

法輪寺乃[illegible]川乃流と清り又[illegible]

乃山の麓下寺 松乃尾[illegible]月[illegible]法輪寺[illegible]

嵯峨乃[illegible]京より西南西にあたる也

後撰 大井川うかふ舟乃かゝり火に小倉乃山も名のミなりけり 業平

嵐山（あらし）峯 麓 寺 花 紅葉 月 渡月 松尾より北之

京乃三条[illegible]

亀尾（かめのを）山尤 小倉乃山[illegible]あらし山乃北之 天龍寺之上

入[illegible]月の[illegible]あらし[illegible]とよミさけ

古今 亀乃尾の山乃岩根をとめて落る滝の白玉千代乃数かも 惟岳

雙ヶ池 ならひのおかより京より一里あまり之 [illegible]金閣

流乃[illegible]此も井よ池まて[illegible]池と云説もあり[illegible]

とま[illegible]くさかの名所ある[illegible]有之[illegible]大同歌

ごいふ[illegible]京より[illegible]之下歌とも同歌とも[illegible]の小

（風雅秋歌）[illegible]同おも[illegible]京乃君とゞまり[illegible]もあるや

[illegible]の初秋[illegible]

[illegible]

（あたご）愛宕山　戌亥分　峯　樒ヶ原　月乃輪の里　あ[illegible]の

[illegible]山乃[illegible]より[illegible]也

丹波乃境なり　水の尾の里とやいは此山乃西南乃

[illegible]丹波乃[illegible]清和帝[illegible]

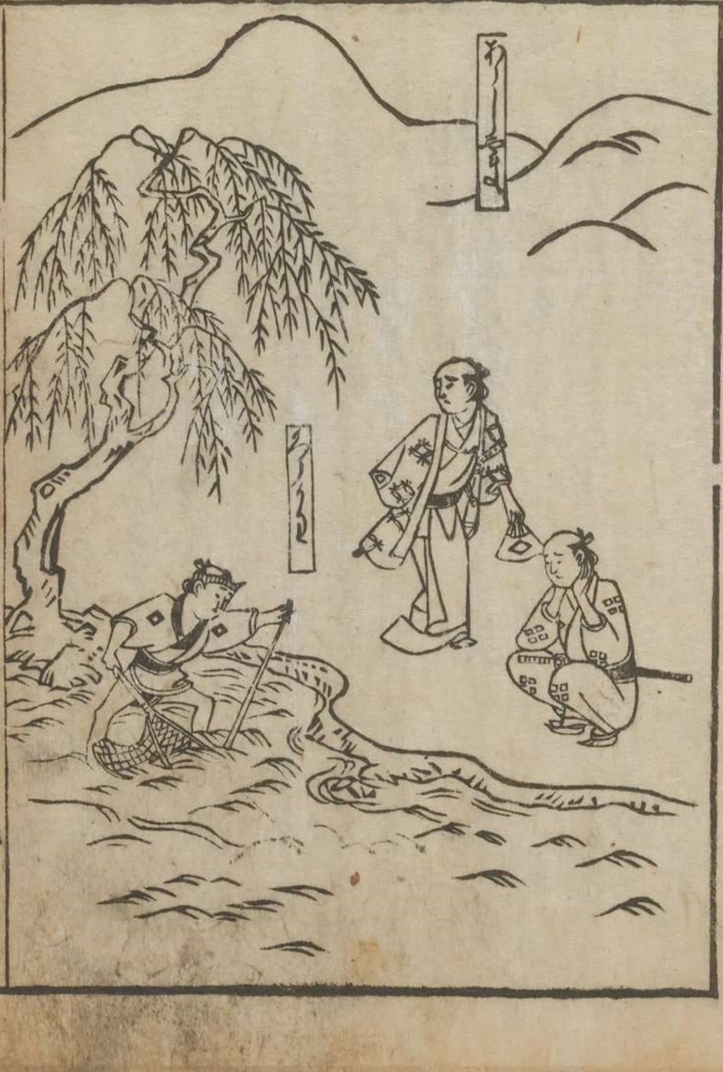
水乃尾の帝と[illegible]なり

[illegible]

後拾遺之雑也

[illegible]見[illegible]

[illegible]乃山[illegible]この山[illegible]なり



高雄山（たかを）　嵯峨（さが）より北なり山寺あり　栂尾（とがのを）と云山寺

（八幡山をいふ）ことゝる雄ふ遊つゝおとこ山の峯ひなり

（拾遺 秋下）かれ名乃こゝの雄の山とみえゆる名ありて大井の家ぞあれん

高雄名に逢れし山の紅葉をへなるらむ山のうへのとふとこそ鳴

鳴滝川（なるたき）　仁和寺の辺なり　おとこ山乃北より流る川也

川なりまつ〱おつかゝなかれ　（後撰）

（法）おなれ滝やこゝ見たゝ滝よりそこさかへは夜を秋やならむ

衣笠山（きぬがさ）　あかめ乃北なり也　春日乃末社也是を仁和寺

あり宮といふある

（続古今集秋）なかれにさへ衣笠山をまて〱は雨つゆそふる西の空よと

住山　紫宸（ししん）一条より北乃此之衣笠より東中之地ぞ也

帝王（ていわう）もまれ下と上と二説之　大内（だいり）裏乃右之名所と

名高（なだか）き所なり也此山乃うち　勅撰十九集に記載之

（拾遺 二条）住山をまて此はか秋かれしと京たのしみ也之（大中臣 能宣）

北野　古大内裏乃時乃みな今ハ京より戌亥ニあたる也

内野乃北之一条より北さき南乃馬場之社ハ南向なり

北乃北乃小北野の名乃紙屋寺はいなよ京乃東の方

谷よりも京に北野の天神へ一夜之松乃生ときあん

桜葉乃天満宮一夜松　皆官中也　紙屋寺ハ御本寺

堂也御社乃西の縁より観音堂之　松永神木梅ハ堂

東南のこのとし　及注之本経蔵あり北ハ右近馬場

西也　経堂乃北なり是ハ名のさとも宇地蔵ありの京

又勝宮院辺御代松を植られしを朱垣あり之又北野

を上北野とも云一説あり

紙屋川（かみやがは）　北野乃西之北より流る小川なり社頭より一

町ばかり平野乃ひがし也

（古今和歌）からの神乃我来ゝるしらん継のかけ風雪まつ志く霰

平野（ひらの）　神祇　東　杭　其花北野乃西之中古之所

いにしへハ雨乃仁徳天皇まします代より

（続古今雑）紫波をとし宮人かゝり

（新勅撰）紫波ハよそにも見つる花なれやひらける松にかゝる白雲　家隆

（むらさきの）下野　同所なり又下野乃かたハひろき所にいふべし

それ只いふ小野をとやらう

わかのうら紫野もり下野もり野を見ても花の形

此平宮乃いにしへもりの宮廻　紫野へ下野へゆかむ

似たる見えむ小野のひとつ宮とも合給ふを

（続古今秋下）むらさきの小山にて近し　京より十町北

紫野もり来も太上天皇　標発

小山　此所ハ京より戌亥なり家是に近しけり

かようなり

小分

紫野（むらさきの）　萩　野井　松　卯花　女郎花（をみなへし）　室町西なり

一条より十町ばかりなり

（拾遺秋）むらさきの野辺のをばなに宮こ人めづらしき色に見るや　よみ人しらず

賀茂　紫野之　河川原　林川　林山　みあれ山　片岡　杜

瀬見小川　多田河川　森　家是也　一云乃森　別雷

乃森　河合社之賀茂乃森也夏かり小楽

（古今恋）十二月かり小民家なり

ちはやぶるかもの社の姫小松よろづ世ふとも色ハかはらじ　よみ人不知

（さかきの）賀茂流　とよ夜来也おもかりなりけり

賀茂より下東中之一条にかゝり片岡乃森ハ宮井

京より一里かりてもとかとの御手か

下上てこゝ也下ハ御祖（みおや）乃社上ハ別雷乃社なり

（新古今神祇）みそくさもかハ下賀茂乃かハひかり一条乃山かりや

一むかしは松乃かげにまほるかへりいひや御源氏

長坂（ながさか） 細川 紙屋より北之方棧乃すゑ也 細川なとも云

いふを流る 紫野あり

小野 若狭乃境之 京より四里之 浅茅原

樹せる小野乃浅茅おく露の白きを見れは秋そふけぬる

（すゝき）蛍か月乃木かけ卯乃花咲る小野の細道

炭竈 炭竈 ゆけふり 山乃名也 小野ハ国とも

（くらま）小野乃わたりにけふり立也けり

鞍馬 山寺奥 源氏よ云此寺と云ふ月を見て

入月哉 くらまハ北よ入れとも小野乃方よりあり

拾遺秋（?） あけかたの山の端をさしてくらまの山

貴船（きぶね）川 くらまの西之 京より十町ばかりあり

千載神祇 きふね川むかし乃流れよ水をそめて秋の夜の月 後鳥羽

大原（おほはら） 京よりまとの東北の市原野もしいふ京よ

りとまてまより一里南之小野をもて京をしよりあり

古今雑上

大さはの池の下まておもひぬれはまてもとのさそふそよ 読人不知

松崎（まつがさき） 一条より一里ばかり北 紙屋より八丁之 霧も衣濡れり

氷室（ひむろ）山 池也 松か崎より亥寅あり 北越之 丘陵かく清り

千載夏下 さえる氷室の山乃丘橋清かなる名残をとめて見る 源中正

大原（おほはら） 山里 西よりは東山あり 京より三里之 八瀬 清

あかす見る大原や野にみむ人をもさそひとてく

滝つせの月をはまつ大原やせかひ水のほとりにをもしるらん 良暹法師

清水井（せいすいのゐ） 大原乃里よ云之

むかしよりいく世の月をかけにけむ井の水の流れに黒〻之まなり

又云よりも御世乃里なりけり 井もなけれ里なれは

所も大原ハこの西より少原の方にむかって五十町ばかり

の井の水ハ山越なり ひえの山の麓下横川乃麓下之

小野（をの） ゆふ霧 せうちもてなし ひとつ えいわひおもひあれ

此ほかに 小比叡杉 なとあるへし

源氏物かたり手習の巻 横川に住給ひし 某僧都

いつはりけん[illegible]小野[illegible]

みやけ山 [illegible] 卯月中の午之[illegible]賀茂[illegible]の日之

[illegible]生山世俗によみならはし[illegible]

[illegible]賀茂[illegible]西塔

乃[illegible]なり

横川 比叡乃山の北之大原より[illegible]乃

入道[illegible]よりなり

新古今 雑下　　天暦御製

比叡山 [illegible]横川[illegible]よみける

[illegible]大比叡 大[illegible]乃[illegible]より小比叡

と云西塔と横川との中[illegible]之文殊楼の山[illegible]

[illegible]横川[illegible]

の[illegible]京乃[illegible]乃[illegible]

又あり西坂なとゝいふはきらゝ坂乃事也

此名は[illegible]乃[illegible]とて有之此山を京より二里あり

叡山よりの東之山王七社なと坂本とて湖乃邊也

社頭まします[illegible]山乃上[illegible]東塔 西塔 横川とて有

之東塔と坂本乃社の前より十町たり[illegible]卯月中

乃申乃日[illegible]乃日[illegible]賀茂乃祭之

此西門より[illegible]西塔と坂本

乃中五十八町ありさかりしより辰巳乃方あり

拾遺 雑

[illegible]乃社乃[illegible]　僧正[illegible]

長等山 [illegible]より[illegible]山[illegible]きさあり

[illegible]渡りも[illegible]あり

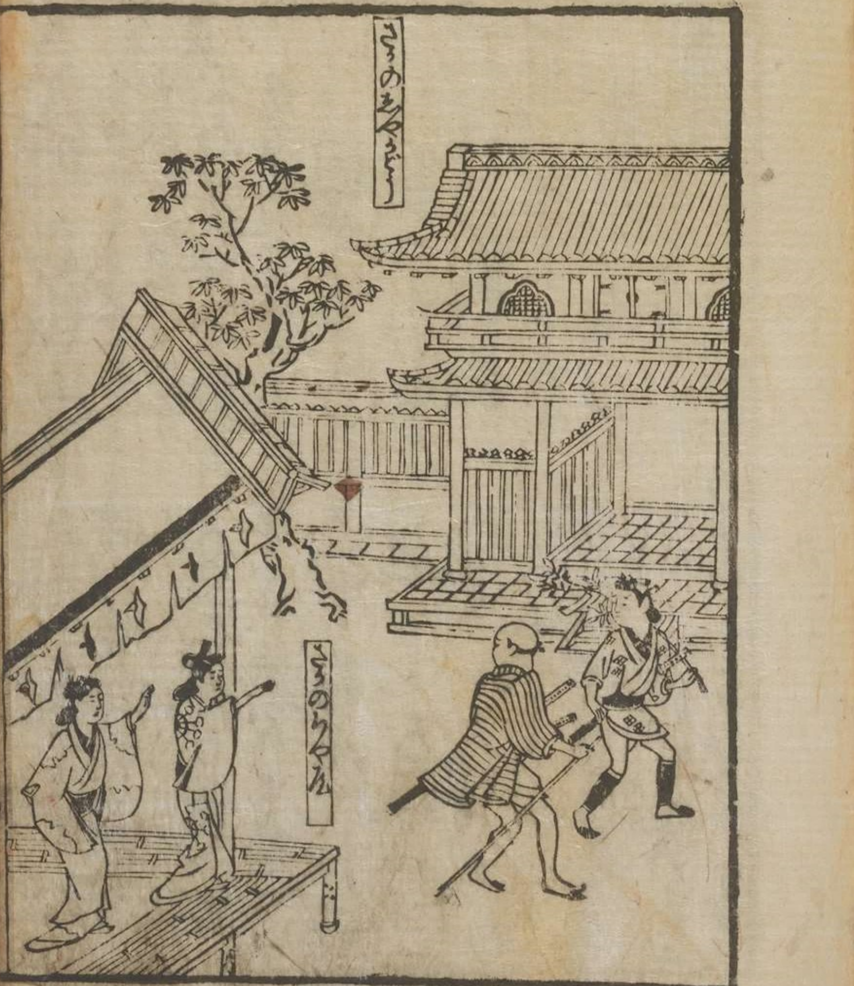
風生山 坂[illegible]長等よりも[illegible]山城乃国なり

[illegible]大寺と申門跡乃[illegible]世俗よ[illegible]乃[illegible]

新勅撰

[illegible]風生山[illegible]　[illegible]

林楽堂　小野篁　終出かし信り一条乃西より八町ひし
あ[illegible]し失念なり
むかし代とはいのり成て番枝とぞせのなれん
藤田村　社あり　毎日まいまいりあり　神楽堂
乃森あり是をもて東乃宮とかり失念なり
洛几色おもよし此枝成なれ大つきさ前代　善盛
聖徳　吉田村より南也　法勝寺乃北なり一条乃西之
失念之東乃西まよ不入菩薩より入下[illegible]
あり杉おしよあり
下加茂　[illegible]一条より八少東よりおなるこ小島[illegible]之
御[illegible]流　加茂乃文井　六條乃穆八[illegible]
古今[illegible]　[illegible]しらへし[illegible]穆[illegible]
出雲路　[illegible]乃[illegible]小島乃[illegible]一条京[illegible]より八寅
乃[illegible]之[illegible]下加茂之[illegible]京[illegible]なり


さうのきやうだう
さうのちや屋

雲乃林（くものはやし）　雲林院（うんりんゐん）乃中にあり　桜井（さくらゐ）殿とて一条大宮
より北へ入右にありてよ紫門跡乃法流之船岡と
小野とのあたりあり
（後拾遺）木乃もとにをらぬ錦のつもれるは雲の林乃紅葉なりけり　読人不知
紫乃雲吹中を時雨ふる我も流へ散むかし

國中茶茶逆易細くも不関ば
思之又書茶茶とあるを

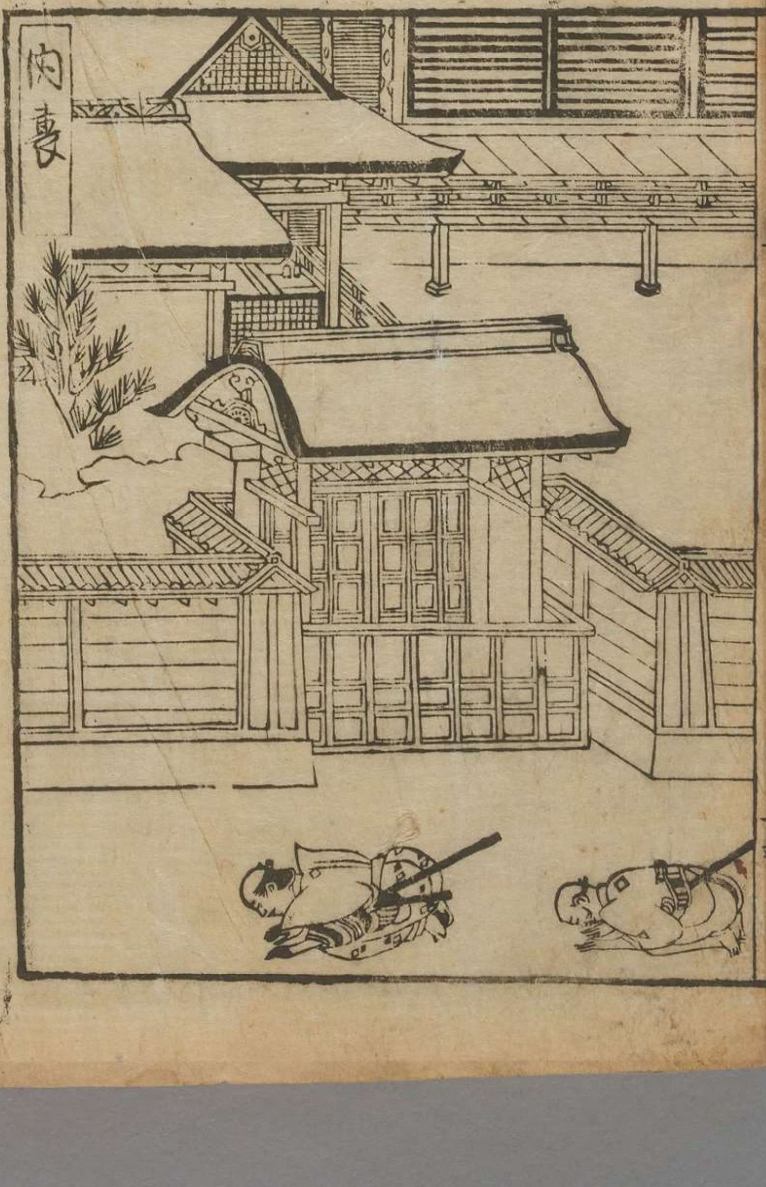
洛中合（らくちう）

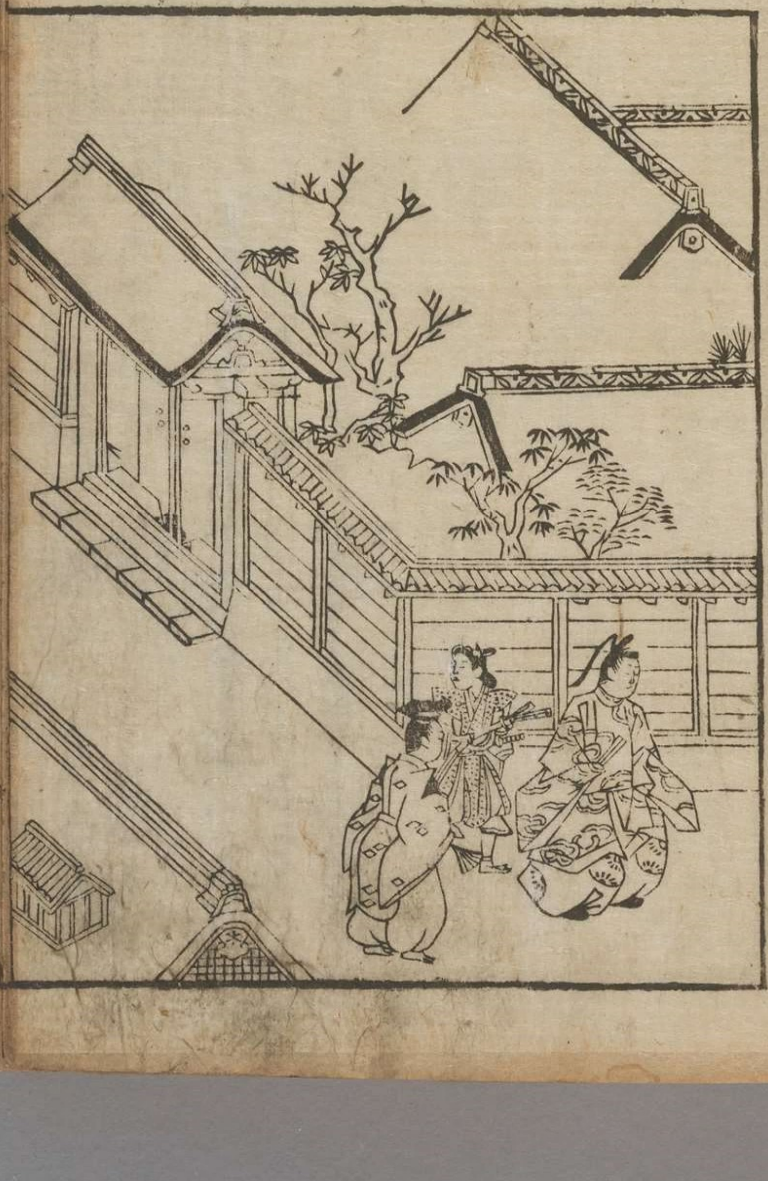
中川　小島より一条東洞院（ひがしのとうゐん）へ流れ出川とも
京極川先出より源氏方へまゐる乃中枝抄かう
（後拾遺集）よみ人しらず
行末をおもひて絶えぬ涼しさの袂乃ぬらさぬ中川の水　式部令海

滋野井（しげのゐ）　勘解由（かげゆ）小路と中御門乃間西ハ油小路
東ハ西洞院なり此町乃中程に有井を或ハ山井
玉乃井なとゝ云京中にての勅撰十五番也
よみ人しらず
塩竈（しほがま）と云所六条河原の院にありし融大臣塩竈浦を
彼（かの）泉（いづみ）より毎日潮三石つゝ運はせられ海辺の景を
移されけりと云此池とよ後代まで之河原院と
是ありし源氏物語よりも此流之ハ渋流と
とあり六条院とあり奥州ちか乃塩竈をうつし
させ給ひけり
（古今）君まさで煙たえにし塩竈のうらさびしくも見え渡るかな
當大裡（たうだいり）北ハ正親（おほぎ）町南ハ土御門東ハ高倉西ハ洞院
なり四丁町之四足門ハ東洞院面なり南にハ門あり
大内裡乃時ハ四方門ありしか今ハ二方計門有之世衰

殿南面也清涼殿同紫宸殿乃西にあり是ハ天子乃
両殿乃中に長橋あり清涼殿へ渡る所也[illegible]
とも云紫宸殿乃東乃方にあり[illegible]會
かゝる時庭上乃[illegible]なと[illegible]
[illegible]清涼乃[illegible]左近橋右近橋とも云御階
乃左右に東ハ桜西ハ橘を植らる乃ひたき桜也[illegible]
まあり極まる[illegible]乃庭とも百花門乃[illegible]
月花門　宮中にありて[illegible]日乃門也[illegible]
内侍所　紫宸殿乃東の方[illegible]鏡乃[illegible]
乃[illegible]又ハ[illegible]文萩乃[illegible]清涼殿
乃[illegible]又[illegible]菊と[illegible]
あり[illegible]梅つぼ萩つぼ[illegible]桐つぼ[illegible]秋
[illegible]八[illegible]
極られ[illegible]

白馬節会　正月七日乃節会也主上出御乃時清涼殿より
紫宸殿へ渡御ましまし長橋を御通りあり
紫宸殿乃高御座に上りて出御ましまし[illegible]乃[illegible]
[illegible]白馬を引白馬と云あを馬と[illegible]上代ハ[illegible]
ひかれけれ共今ハ[illegible]目花門より引入て桜橋と御
階乃中君を引廻りて紫宸殿乃南の青戸にて上
卿[illegible]月花門へ引出す也儀式[illegible]
[illegible]より白馬と[illegible]
踏歌節会　正月十六日節会也儀式白馬七日乃節のごとし
あれども[illegible]
[illegible]年中行事にくはし
御修法　大元帥法とも云[illegible]宮廳にて乃[illegible]
[illegible]長日と大に[illegible]門[illegible]西[illegible]
まゐりてよみあり


内裏



神祇官（じんぎくわん）巳町之東ハ大宮西ハ櫛笥（くしげ）也大炊御門南也
八神殿（はつしんでん）之 天照太神を始て諸神まつりまつる之所勅使
設有之
神泉苑（しんせんゑん） 池有之是ハ二条大宮之北ハ二条南ハ三条洛
東ハ大宮西ハ壬生なり池ノ中嶋ニ両天竜なと
とせられしより古之勅撰にハ全器の庭水と見えたり

増補名所方角抄 中目録

近江 初丁目
美濃 六丁目
伊勢 八丁目
伊賀 十一丁目
尾張 十二丁目
参河 十三丁目
遠江 十四丁目
駿河 十六丁目
伊豆 弐十六丁目
甲斐 卅一丁目
相模 卅一丁目
武蔵 卅三丁目

安房　九四丁目
下総　九五丁目
飛騨　九六丁目
上野　九七丁目
出羽　九八丁目
大和　三十丁目
和泉　九七丁目
上総　九五丁目
常陸　九五丁目
信濃　九六丁目
下野　九八丁目
陸奥　九八丁目
河内　九六丁目
中国[illegible]

名所方角鈔中

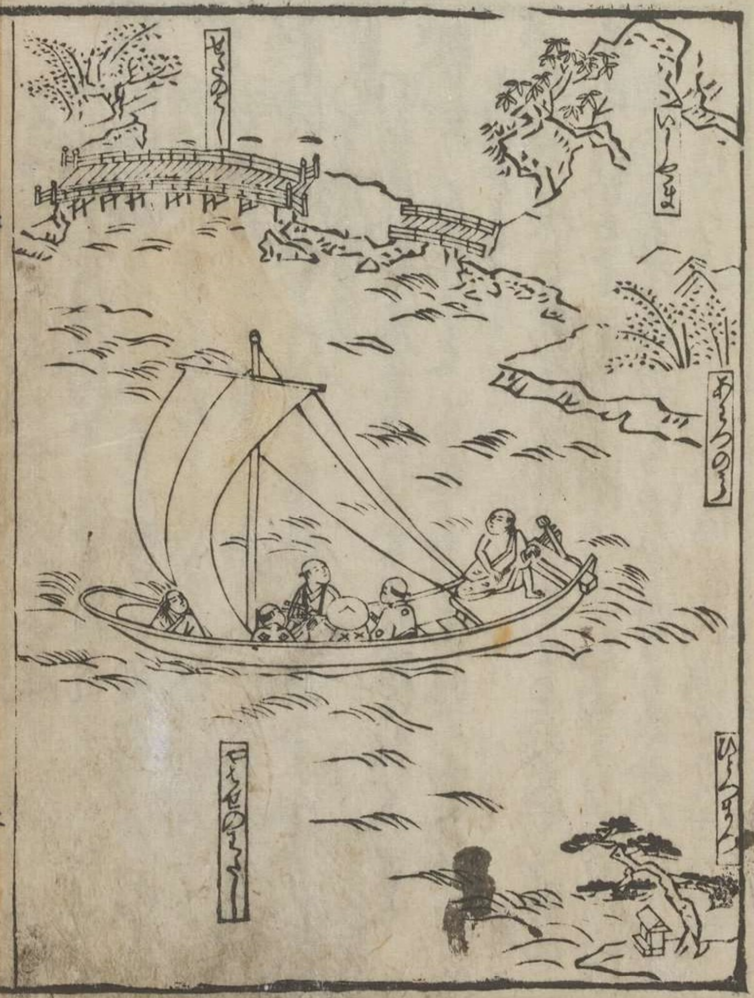
近江国分

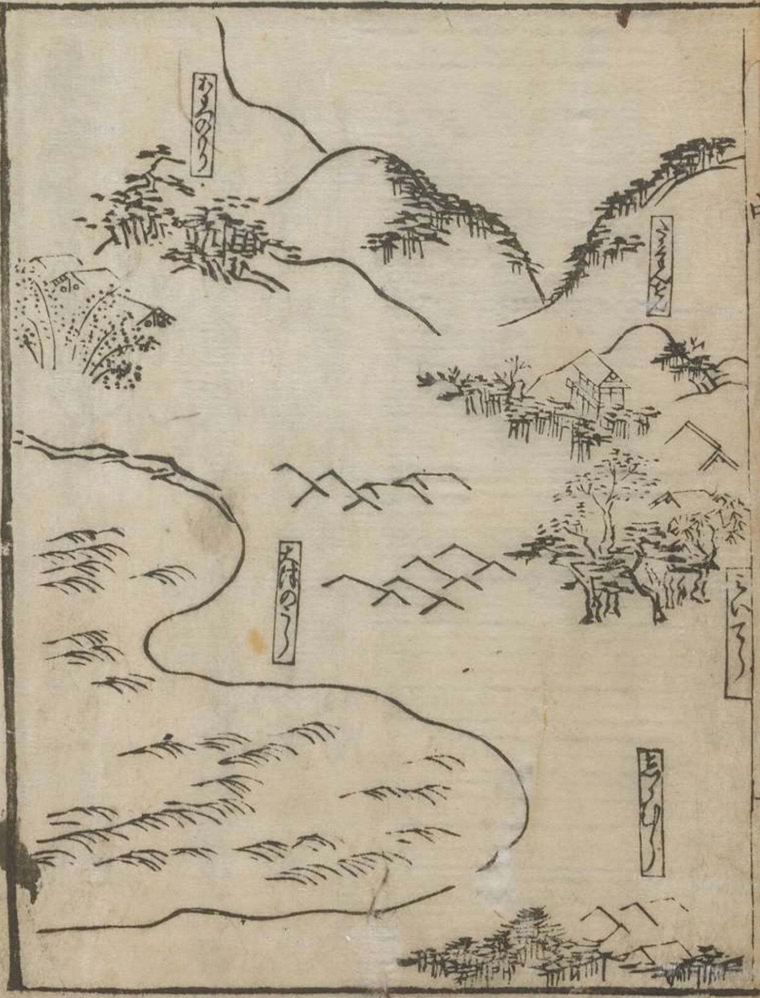
近江国ハ南北へ廣さ[illegible]東西ハ[illegible]之南ハ[illegible]海より西京より東ハ山ハ相坂山まて三里有り又比叡（ひゑい）山ハ近江乃国乃うちなれとも京[illegible]山城乃さかひ之出哉（ささのせ[illegible]）[illegible]之

西近江分

関小川（せきのおゝい）　相坂乃小関之関乃清水（しみつ）又岩清水（いはしみつ）[illegible]関川丸云りける井香之関[illegible]関寺[illegible]云[illegible]杯も詞[illegible]よめり

相坂山（原ぬき跡）　関山　関の戸山　鏡山（むけ）　枝村　花鶯（えひさと）[illegible]


いしやま
せきのし
あはつの
ひらのやま
やはせのうら


こいろ
さゝなみ
みゐのてら
とうし
大津のうら

東ハ松本乃濱と関との中の道　嵐乃風　梅原

乃湖まで月乃名所なれバ讀歌尤おほくあり

打出濱　湖邊之関より十町ばかり東ハ今津乃関と云

所之北ハ野よりハ南西を見れバ山へ乃路也

新後拾遺
湖ミえて打出の濱を見渡せバ船目深くさゞなミの浦波　後鳥羽院

粟津　関寺　野原　東　ひかり　萩おし　清水の東山

乃かたハらにあり

後撰集
関こえて粟津乃森のあハずとも志水に見えし影をわするな　よみ人しらず

勢多　長橋とも　唐橋とも　粟津乃南之橋ハ湖に

かけたり

新古今雑中
真木乃板も苔むすばかりなりにけり幾世へぬらん勢田乃長橋　匡房

石山　観音堂ハ南面也湖乃尾勢田より南之此山の

まへよりて瀬といふ乃流なり石山乃東也と南之

かれより流乃もと橋ハ岩ハ流まで宇治迄

あり京より此里之勢田迄ハ五十丁ほど之勢田

勢田乃橋よりひがしハ野路乃宿あり

新古今雑上
いさまとへまろんとする山の岸乃籬もる旅乃秋の月　藤原長能

大津　里有之東山乃濱よりむかふ十丁計之ひがしを

湖にそへてあり

三井寺　大津乃里の奥なり山をすこしあがり園城寺（をんじやうじ）と号

三井ハ御門乃産湯（うぶゆ）をめさるといふ

千載雑中
いにしへのさかりよ山橋竜ハ鏡をまいりくみしひ　中納言基長

滋賀　都古し　花園山　浦津　唐崎之大樟田山

越と云ハ坂よりハ北乃峯越にて尾ハ志賀の山より

西南乃谷ハ宗寺にて山越の東の林ハ園城寺を

之志賀人之都の名也志賀寺と云ハ京より坂本へと

道越にて小関へ向道をハ長等山を越る之

此山の東ハ志賀の里也坂ハむかしよく常ハ尾とも云

志賀寺 聖人[illegible]四線なり [illegible]本にあり
辛崎 唐崎は志賀乃うちに 一本松 ありしものなり
八しやの[illegible]にて[illegible]乃ころくともの松[illegible]とされ
其よりは志賀乃[illegible]なりと[illegible] 志賀乃花園
辛崎 一松 浜[illegible] 高根 三條乃林 林坂[illegible]
真野 其より坂[illegible]六町 三里なり 浦 入江 里
尾花 鶴 浜 坂[illegible]より小[illegible]なり
[illegible]より[illegible]のうちの 松風
堅田浦 沖 志賀のうちの小沖よ出るなり
[illegible]網の目[illegible]
比良山 高根 松 花 月 雪 志賀 林[illegible]
京より小関[illegible]十二里なり 京より[illegible]
よこ[illegible]山之[illegible]乃海乃汀よ 白鬚明神
[illegible]比良乃小松といふ名所あり

千載 [illegible]比良の[illegible]根の松[illegible]
高島 [illegible]乃花之 山門 [illegible]小松[illegible]
[illegible]山松[illegible]
玉村 志賀乃[illegible]あり[illegible]
[illegible]玉村乃[illegible]
竹嶋 比良より奥なり 竹生嶋よ近し[illegible]
竹生島 比良より海上六里なり よこの海といふなり 湖の
水乃奥なり 弁才天のましまする也 此嶋ハ 水精輪と
[illegible]より出る志まなり
[illegible]竹生嶋[illegible]
よこの海[illegible]
[illegible]乃海[illegible]
余[illegible]乃海[illegible]
[illegible]近江乃[illegible]

行よわかちし山こえ来ぬ乃あふミの海さらにまたあり塩津

笠金村

（風早殿）越あの乃さらひくいふさの[illegible]なり

塩津山お越えれもしいつゝある語そ流まつ妹らせしと

わかち山宮けの宮にあり鳴まで海津の里よ[illegible]

信楽城（しがらき）　東近江分

山　外山　里　笠　杣木（そまき）川　近江乃国の端

伊賀（いが）よりあり石山宇治を紀し田上河志りさき

乃島なり

（金家苑）

（[illegible]）[illegible]岩本の松[illegible]

（[illegible]）

田上　里　**綱代**（あじろ）　釈本（[illegible]）

（新[illegible]）

[illegible]乃田乃上川に[illegible]乃山風[illegible]

山田浦　矢橋（やばせ）乃浦　二不よあり[illegible]栗津[illegible]

乃ひらあり[illegible]流れ[illegible]山田浦

よりし矢橋乃[illegible]八[illegible]乃[illegible]

十町ばかり山田[illegible]といへり勢田乃橋まで粟津より（ま）

[illegible]野洲より山田を[illegible]

野洲（やす）**篠原**　守山乃[illegible]乃林[illegible]

[illegible]乃[illegible]三里あり又山田乃[illegible]

南より[illegible]玉川[illegible]

安嘉門院四条

[illegible]あり

（玉[illegible]）

三上（みかみ）**山**　**鏡**　**枚**　**榊**　**夜**　**須川**　[illegible]山乃林[illegible]流より

（[illegible]）[illegible]三上乃山[illegible]波

（[illegible]）

横（よこ）**の山**　世[illegible]横井[illegible]三上乃[illegible]丹波

[illegible]あり

守山　（もり）大[illegible]上[illegible]横の[illegible]

山[illegible]乃[illegible]

七[illegible]より東国へ乃[illegible]あり

露　時雨　麓なとよめり

（続古今）しくれをも月にそいて守山乃下葉染ぬ木からしの風　参議雅経

守山乃宿を過て野洲川をわたり志乃原と云

宿はづれにあり　鏡山乃梺なり

鏡山（かゞみ）　池　宿より西也　守山より東なり　篠原に此山乃

西乃ふもとにあり

（古今雑上）かゞみ山いさ立よりて見てゆかん年へぬる身は老やしぬると　大伴黒主

月出浜　鏡山より西へ　わすれ路の中にあり

（新拾遺）おいそのもり　かきりとてわりなく見えよ月出の浜に[illegible]　津康朝臣

老蘇森（おいそのもり）　鏡乃宿より北　寅乃方なり　歌によめり

（続拾遺）東路の思出にせん郭公老蘇の森の夜半の一声　大江公資

蒲生野（がまふの）　蔵　生野　宇禰野（うねの）

（拾遺）[illegible]乃野山よ[illegible]のかへて見えつゝ代乃かすかなり　よみ人しらず

[illegible]を結ふ[illegible]のかへ[illegible]ることのよね

鳥籠山（とこのやま）　犬上郡也　犬上山といふ又　老蘇より少南なり

いさや川　とこ乃山の梺なり　歌によめり

あふみ路乃とこの山なるいさや川けのころころは恋つゝもあらん

（古今）犬上乃とこの山なるいさや川いさとこたへよ我名もらすな

いさや川を東より西へなかれ行ちいさき流れなり

いさや川を不知川とも又とこ乃山より千町

はかり北に小野乃宿を過て小野の摺針と云

説あり　荻を読り小野の宿より少し北に根[illegible]と云

宿まて[illegible]より千八里あり　天[illegible]乃[illegible]へ[illegible]

醒井（さめがゐ）あり

此根より口北出番場より東也　[illegible]

より[illegible]坂ゐの井[illegible]宿東之東り

ひつさ山あり

清て[illegible]わへ醒井の清水[illegible]

梓乃杣　山川有之

千載集
あつさ川梓乃杣をそこと見て難波の道をとほさかりて　能因法師
あゆるさるとゆるされぬみのゝ不破乃関なり
しかさ山にきこゆなり

續後撰
文ちくま川といふ信濃なり又揚梅家
藍乃器也江不く眺める国の東近江
道のほとりにものゝ家とも又見はての読人家
くるしきの岩乃流茂き家のはかなきなからん

美濃國分

不破山　中山家屋板ゆへし信濃六乃関とあり

千載集
わかもの不破乃関の家まてとも又よきなき　大中臣親守
野上里　不破乃家より二里ひかし又藤浪乃井なと
いへるまのありければよめり　よみ人しらず

風雅春上
霞立野上乃かたに行しかは鶯なきつ春になるらし

不破山を能越としれは霞の中にそなへたるそなく
関乃藤川　野上より一里東之此前の関よこの山を

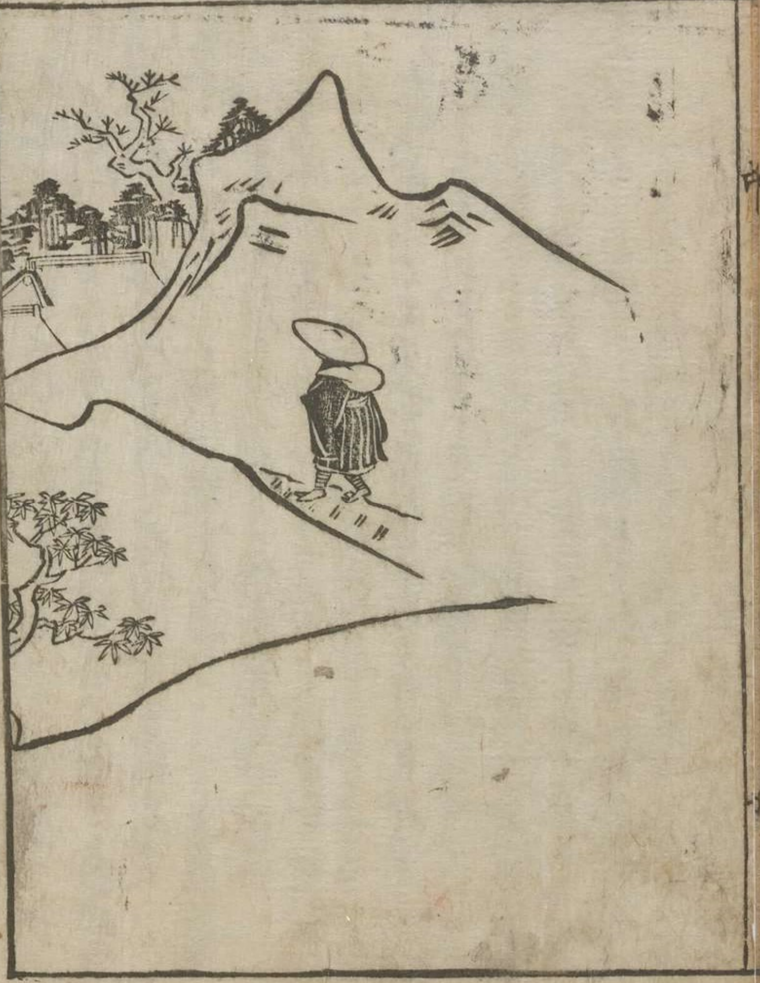
古今大歌所御歌
みのゝ国関の藤川たえすして君につかへん万代まてに
玉井　小ゝまとことも中山ともいふ　藤原家隆

同六家集下
しもかれて玉井のあたり縁もなき秋の色なる

青野原　玉井より又下なりひかしに此所を過れは
あをのかは前なりこゝを名所とまよ不関
大我野ことい名所ともあり京より玉井まて
武十一里之又玉井より二里也伊勢の葉名とも
所々玉井より二里也伊勢乃葉名といふ所
此のあたる山乃あたりの若を中しなりといふなり

笠縫の里　あをのかの坂なと云前より杭川を
ひかりて東之杭川を渡りそれより藤のあり
坂の此より邑前乃方へ大きなる二飛縁一切

こゝより赤坂より杭瀬川へ出て尾張へ出るなり
（立ち）渡しはいのちかこひとなるとて西は芥見の里
長橋　橋の長さ百間に余りたかく　（岩井）
（いなばやま）なり里より此橋を見渡之
稲葉山　岸東美濃なり長橋より又里計へ出る　其岐阜の
方より山中へ入もかゝりのあたりと云所より八町ばかり
寺ありていなばし山中へ入ゆなり
（古今離別）立わかれいなはの山のみねにおふる松としきかはいまかへりこん（中納言行平）
（ねさめ）寝覚里　是をひとつのこと
風の音は坂をもこえて見るとも子の瀬の里は谷の間
近江と美濃との東山道の関へ赤坂より飛騨へ行は東
山なる東海道を伊勢より尾張へ物見より南の国へ
なかのらむ松坂より手前よりのこの渡し尾張
とおるは大東海道をゆかんとおもはゞ伊勢路へ



せきの追分より鈴鹿へ下有也

伊勢国分

御神木　京より辰の方に當りて　此京より神明へ參るには杉坂より三上の嶽の南を廻りて參ると云　都まで京より十二里あり　鈴鹿を伊勢なり　東海道の五ヶ国なり　伊勢より出る也

鈴鹿（すゞか）山　関川　八十瀬（やそせ）　又八十瀬乃瀧見　時雨

桜宮　坂下よりふる花ある之

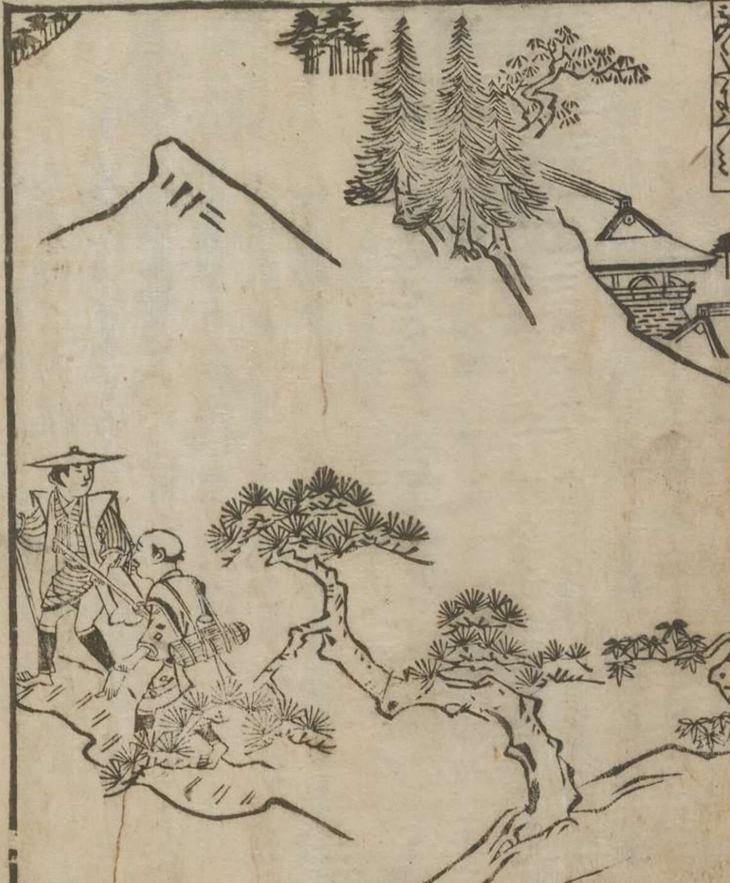
（後撰鈴鹿之）鈴鹿山いせおのあまのすて衣しほなれたりと人やみるらん

阿漕（あの）　青山　松原　浦　海岸より鈴鹿より六里之

ひかりあり

伊勢路より数とくれ松原の青山　野河　山を越て　鈴鹿の里　海岸の宮より　日永川

名所とかれより道せし



桑名よりくだりて来れハ四日市乃宿也日永宿
桑名といふも名所なり日永の宿まで三里あり
ふたみ乃宮も海辺なり此所へハあのゝ津より四日市之
日永とあるハ二三里あり其道と云里あり
名所なり美しき浜辺よりて千ちの文乃所ハ此所の花
海乃人の浦ハ此東海道ハ山なりあのゝ津より雲出
とて雅の名所なり此所ハ八里あなありし此中右
よきこ山形し此所名色なり飛を来る人家をた
て度会がとゆかしと名所なり浜荻といふを此
ゆかり

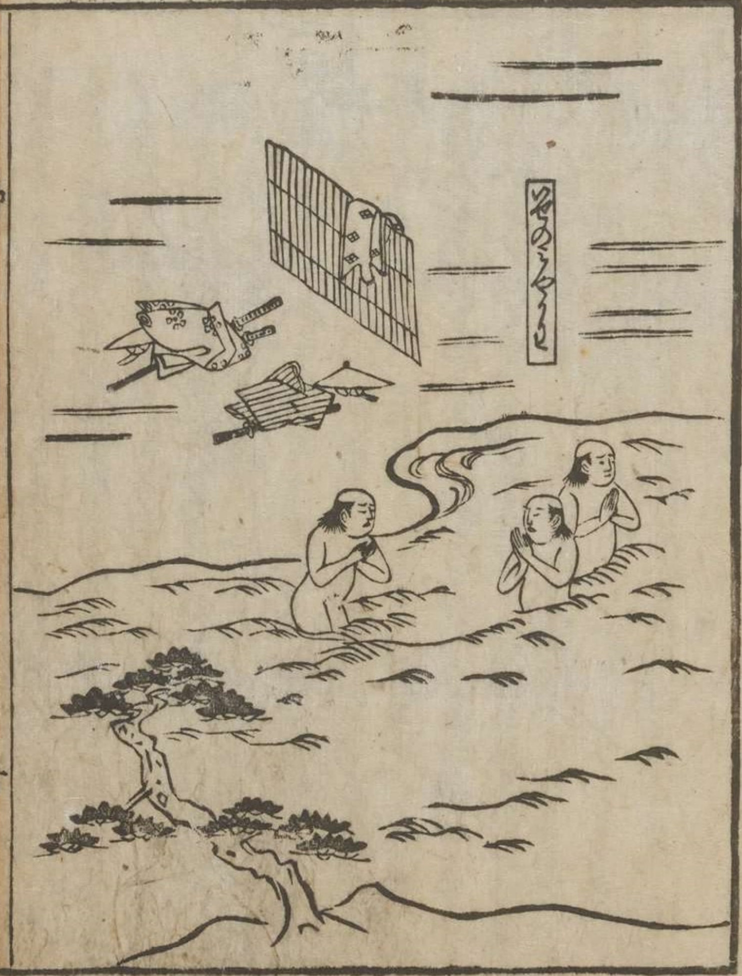
雅乃文
風雅にハ此浜荻を詠み袖の波よ偲なり
歌文 浜荻ハ山田の御河神乃来社の様よ
わり山田より三里計也之海辺之揺田川を津川とわ
乃あちし

新勅撰
乞れ行のよ数をまつりし人の宮中にひ迄　中納言定家

宮川　山田乃入口なり世俗にハかみ川ともいふなり山田の東
といふ桜渡りの宮川ハよりにてまちて宮川
来る乃人を渡しとけて宮川より
よりひらく六町もこし山田の宮
社よまことハ出てから宮川への内宮へ至る
あらうちとの神とも宮宮のよそあ宮乃
名古屋ゆく宮後なと云宮之海辺之文
新古今乃神あまりハ池あり月かへ清き坂と

月　新古今
経りわりて名のか月の中宮ハ此東を云とかたち

天照太神宮　神風やいすゞの宮の大宮柱
世俗ハ天乃岩戸とハいふ宮乃ならへ南方
よみていせ山よ皇太神宮へ行く
と南河なり御河神乃法楽之と云ハ入らん



かみかせ

神路山根乃もとにて[illegible]内宮へ参詣乃人五十鈴川にて禊をなし此川を御山より西之南より小浦にかけてなかれ[illegible]二見とも[illegible]大河也とそいはれ

（続古今集）
神風や五十鈴川乃そのかみに契りしことの末も[illegible]
皇太后宮大夫師継

（後拾遺集）
君か代ハつきしとそ思ふ神風やみもすそ川乃すまむかきりハ
（民部卿経信）

内宮南面之[illegible]鳥井[illegible]又[illegible]廿一年[illegible]

又風の宮[illegible]

あり 隣よこ乃杜とも云り 鈴鹿乃又鏡乃みや
あこへ鈴鹿乃こゝのまへにあり 関へあり一里
ばかり小乃らうちにあり

（新古今）しられぬ秋乃あはれをかねしらむ花の宮こに月の名の杜　（宮内卿 院越前）

（続古今 羈旅）いかにして旅ねの世よりわかれけむ浦風さむく鈴鹿のみや　（家隆）

二見浦　鏡乃宮より東一里　但馬　播磨と同しくあり

（金葉集）ふたゝび二見の浦の貝をさへ拾ひに来つゝ松村立　（大中臣輔弘）

伊勢海 付 潤川　桜麻　生浦　海是也

いせの世のあまの袖(?)よりかはらぬ世の海の波のうへに浦のなるこゑ

むかしより是より是ぞ海士小舟ぞ世の杜のうへをかはらん

小野のせ 古江　瀬　浜　江　海是也これにて知るなり

伊勢島 付 若乃松原　山　小野　小野

いせ島やまつ原見れば世の又浪にけしき秋風ぞふく　（光明峯寺入道前摂政　太政）

あこぎの浦 付 神の浦 是にて知るや

（後拾遺集）こゝろをこめ御裳濯川をこえ御裳乃浦のわけかな

（六百番）衣袖の浦のうみせ貝をさしそへて波さえ家の国をまもらん　（慈鎮）

瀬川 付 三泉井　是なり

（新勅撰 祭日）あさる川の池と鈴よせてひとの世をかはる松のちとせもかはらん　（入道前関白）

（千載集）まつりしらぬ宮の末にかはる松の世に続くらんかはらぬ宮のかみの宮　（読人不知）

伊賀国分

さてそ旅をゆくとなりにけり見えてより伊勢よりは近

案内よりある国あり京よりも伊勢国へのほりあり

伊賀乃国大和と伊勢乃中にあり　順道より之

あはさる道あり東海道のほかは旅のよし(?)へ

（これ）難波　是なり あはれその東にて是なり不知

さよ空あれをの東乃ゆふ見て是よりまでけるそ

（いにしへ）つまさくしあかりなる旅もなくかしのつゆ

熊乃瀬　正字で熊と是也不知旅の国之京分

辰巳よりわたる魚ころを東海にそゝくよりて志らぬ
なり境より尾張へ入り葉栗郡なりかゝる所まての
けふりと山あり尾張乃所まてそ
御津島より下津乃宮へありて熱田へ入
東海乃道なり清すまて御乃宮四里なり
清須よりあつたへ五里なり

尾張國分

美濃と尾張のさかひはすのまたより大河あり川乃中
瀬をさかひとして東尾張なり
阿波手（あはて）森　浦里　萱津と云里乃南に森
あり建保名所百首にも入なり
（金葉集雑下）尾張なるあはでの森のしたつゆをみるめなかりつ拙それとけ　源雅光
歌のことはに此森の名をしるしおきつるなり
東海乃道より東へ十里之あと

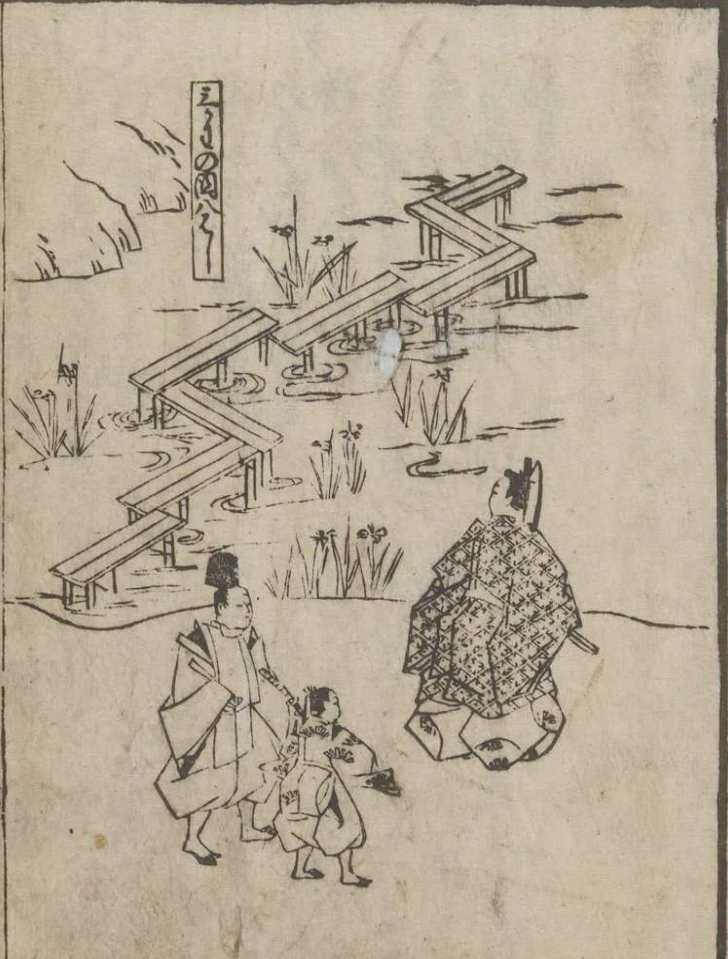
此川を見るに美濃のきはまてより下津乃宮
大里より南なり此あたりより尾張なり又尾張國まても
山なし北よは花緑乃山見えたり
萱津（かや川くれ）下津より五里にのほり世俗に加わ川乃
志ゆくといふなり
熱（あつ）田の宮は津乃守の神なり御所にて御乃
熱田宮（新）南向なり東西三方より小よこなり南
より西へ海をあつかの深くはなりやまとふけ
乃名の御を此宮に納め置る八劔乃宮をも草薙乃
の劔といふなり此宮を草薙とも云也
蓬莱（ほうらい）山とて社のまへより西のかた
郭を亀に似たりそのうへは松しけくよ
ありて亀乃頭を東へ向けり大なる堀のこと
東の方には出る所より南は熱田の

宿をはなれて右乃南へ山きはまて鳴海潟なり
このはまより鎌田まて河里なり
鳴海浦　潟　よびつぎの浜　星崎　上野　寝覚
里　中川　鳴乃里　あつたより本一町中にあつさ
走井潟なり汐さちぬれハ上野へまはりて渚より
上野へひとりゆく山をきたまく　みのこと云
めの潟三里ハ野中に笠寺といふ寺ありかの
本尊ハ観音又八剣乃神ありて此所之玄藻の
利よ笠をかぶせ申し　笠寺と号す　小児
うひ汐さの潟にハ流来の家居をなし塩屋がく
見くらり呼続をいふなりひつさし鳴海の名之
あまの浜ハ海をも海にあり
松原の里　松世の里ハ一町よりハ一ひろにて
ちかく鳴海まて見えたり

新古今
風吹ハよそに鳴海のかた思ひ思はぬ浪に鳴千鳥かな　正三位経家卿
鳴海より左手ハ里しかわん上野の方をいふへしとの
むかし此あたりハみの里より来て熱田の浦の宮に寄する
神のへ渡しとかや繁昌なり今ハかせん萩原の浦なき所之
松風の里よりむかしあまたの舟もかよふ磯辺より千丸
ゑかもの浦　鳴海より又六里奥にかりの海辺よりおもく
はゆへ不及一見に今ハ目に見えさり潮かくといふを此
うらかなし　のまのか川とあらそひて立帰る　又鳴海
乃里をはなれて藤の原殿をすきて田楽かくぼといふ
野ばらにて沓かけをへて八丁里ばかり過て池鯉鮒の里
是まて尾張なり三河乃八橋へ鳴海より五里之
此中古さうに及るなり

三河国分

八橋川　花乃淵より八橋乃前三町ばかり西へ行なり



東へゆけは小川之橋とて土橋あり　四間あまり

乃ちいさきを小川ともいへり

矢矧里　けふは八橋の里あり　八川に橋を渡せ

とを名付くといへり宿あり名物にあり

業平ねせそ此所にいたり橋より東八つの川の橋にてかきつばた

宮路山　東八川あり小也しかしの里あり東より

遊し山を見て下るに家乃里をゆけばまち里にいたり

（後撰集に）くれはとりあやにこひしくありしかは二村山もこえすなりにき　清原諸実

二村　峯　間　家乃里　二村よりまち五里あまりあり

庵し

（夫木）宮富二村山のすそにこえみしといふ嶋まかされ　権中納言俊忠

夏ゆく家乃里をも以めかの二村山を越てこそあれ

花隠山　善ぬ山　麻みよ帆して出くれ来れ

明のきよきをみのてし　橋　猪尾り

然菅渡（しかすかのわたり） 付 おまへの濱 出生寺 細しく不尋之

（金葉雑上）もへをきいらふ然菅のわたり乃ほかならん （藤原家経朝臣）

豊河（とよ） 世俗によしと橋といふ宿ありとも是なり小川のほとりさへ上橋乃

宿よりくる所なり小川又大山なとも橋とは見えす

あり夫それ乃里渡ありけり

ゝ言 猪乃あなとて宵やりてあしかりけるを人其川乃あと

見れは名所なり昔みなみなとせまるしき渡有之

帝の御ひんなとえ渡いりまさりし之乃浦七ゝ

かのあたり老は鶴乃あたりとりて見へ申と申渡

書てさかなり

遠江國分

ゝ言 高師山（たかし） 附 原 浦 濱 奥 小松山 前に海あり本

高東より見えて志らすか坂ありて富士見ゆるなり

志らすかをおもひのほりて遠江の見わたしたる坂の

下乃渚に世俗に志らすかといふ宿また白菅乃濱

あり志らすか乃濱より富士の山も見えてまた見渡なり

（新勅撰秋下）清見（せい）え たまつ 幾重（いくへ）かさなりて月人もあまたなり （鎌倉右大臣）

ゝ言 高所山よりすかさきの橋経にて高所乃南に橋あり汐見坂あり

高所山松よ又すかさきの橋ありしかれハ汐見かたへも

橋ありしへ白すかの藤よりまゝ野より橋ありしかれハ水乃流る

海ありきあれ乃川よ橋あり小よりの南へおちれ

めくりて人家志らすかの南乃いりよ 松原

濱名橋（はまなのはし） 同之 大海より水乃山に流あり 橋ありしより里

あまり小舟のりても汲海りし今よ見えて

（ほまつ）又汐松原 海士（かま）小松 いつしよめ乃川に遠江

乃小松乃ほとりさかりいり今濱名と海なり

せられけり女坂とてこゝろ所山乃小やよとゝろ橋有
さ今乃海乃あり世俗ハこしといふ宿あり
橋より八丈里あり見付乃府といふところに惣社あ
まで見老よ不見ところに袋井（ふくろゐ）中に名とゞの中天
懸川とて二瀬をわたる大河なりかよひ南へ
うちわたりて三里ばかり沖へながれて大きなる瀬と
ふかき池田のほとりをといふところ宿なり府中
より又里ひらしよ懸川ふくろひとて宿なり

（新古今　西行）
志ゝ川そる往代りのふ年ひや小夜の橋と名所ひ久の盛
佐（さ）夜（よの）中山
東乃ふりしよハ菊川ほとに不ありけり山より出
（古今恋二）
ゆくてあるあり甲斐（かひ）根（ね）もみえて涙
ゆひかゝ日をまゐとされりかれよしとそるゝの中に
中山まてひろくひろくひてさゝ之山の中なか中ニまり

菊（きく）川　さよの山のひがし麓なり宿なきこ川ハ小金
南へながれゆく流川なり
昔南陽県の菊水下流を汲て齢を延る菊川の宿
今海乃のかの流れを宿して命を失ふと中御門宗行卿
卿しるしおかれし所なり菊川より東へ諏訪場ありといふ所
とおもて大井川と云大川あり金谷より嶋田へ
うちわたる川なり島田よりかれかれのあたり
て瀬しかも海流りとかはりかれかりかれ
ほどなくさよの中山を越て金谷といふ宿あり大河
乃名を置ありて川の南ハ遠江東ハ駿河
嶋田と云宿あり
駿河国分
嶋田より藤枝へ二里これより岡部
乃里武足之蔦乃下乃国府見

宇津山（うつのやま）　むかしハうつのくことゝいふ苔乃字を申し讀かり
文歌人ハ花紅葉　蔦乃下道　岩屋乃さし出の念なり
宇津乃山の西乃山にあり　徐よりも富士ハ東にちかく
見えし　是より山を越ゆれハまりこ川と呼る名所
也　たえ細く不用之
左乃あかりよりおもひねたるあさゆふに花八ハをうつ川乃山ここ　家隆

木枯森（こがらしのもり）
こしのかゝる紅葉の紅葉ふよとかけ川部よりうつの山風
富士をはるかにたて森よりも東よる山あり見えて
川とて渡ハ川乃府ともりくこ川との君川ありてまた
上又六里ほりハよりはるかにくらうつ川乃山より府
まつ又里ほりあり

新古今
ほしわびぬ秋乃名にめでて木しぼむ森の下露　宗尊

清見潟（きよみがた）　寺関　又浪乃関どもいふ　山南ハ海也
寺ハ山のはけ寺より富士ハ見えて又海より富士遠

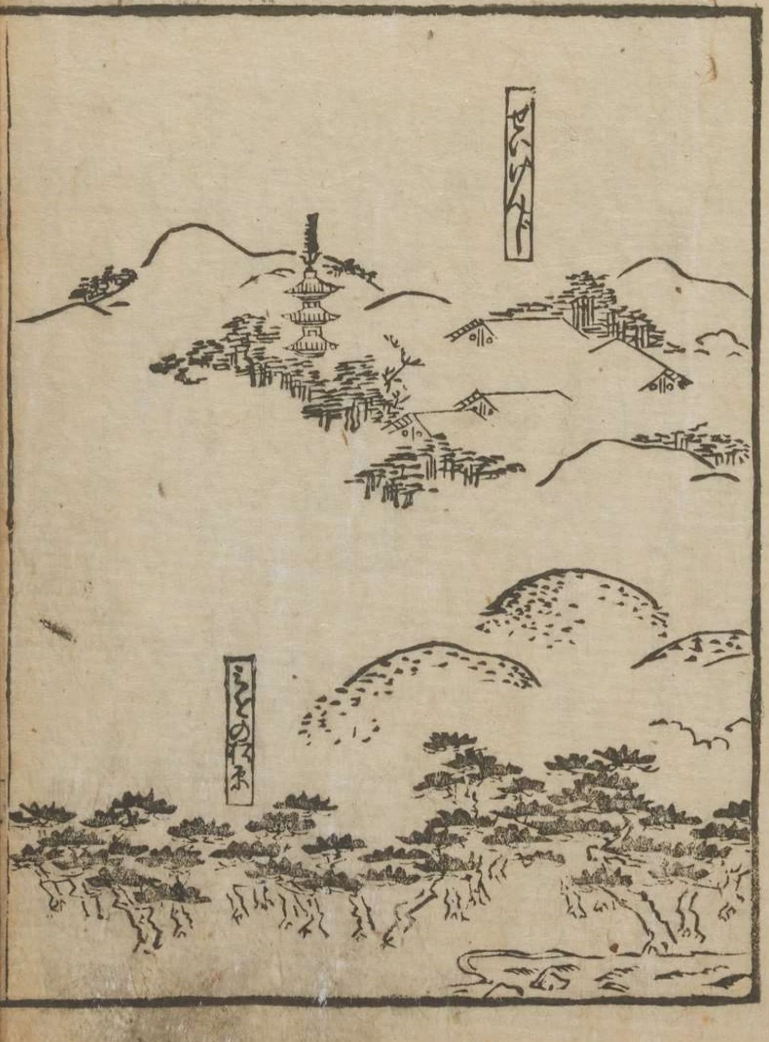
寺ハ南むきにひかしの関を北門なり寺をはなれ
にしひかしへ行ハ奥津乃里より出る大なり
見えかかり　月宮　千鳥　詠めし清見

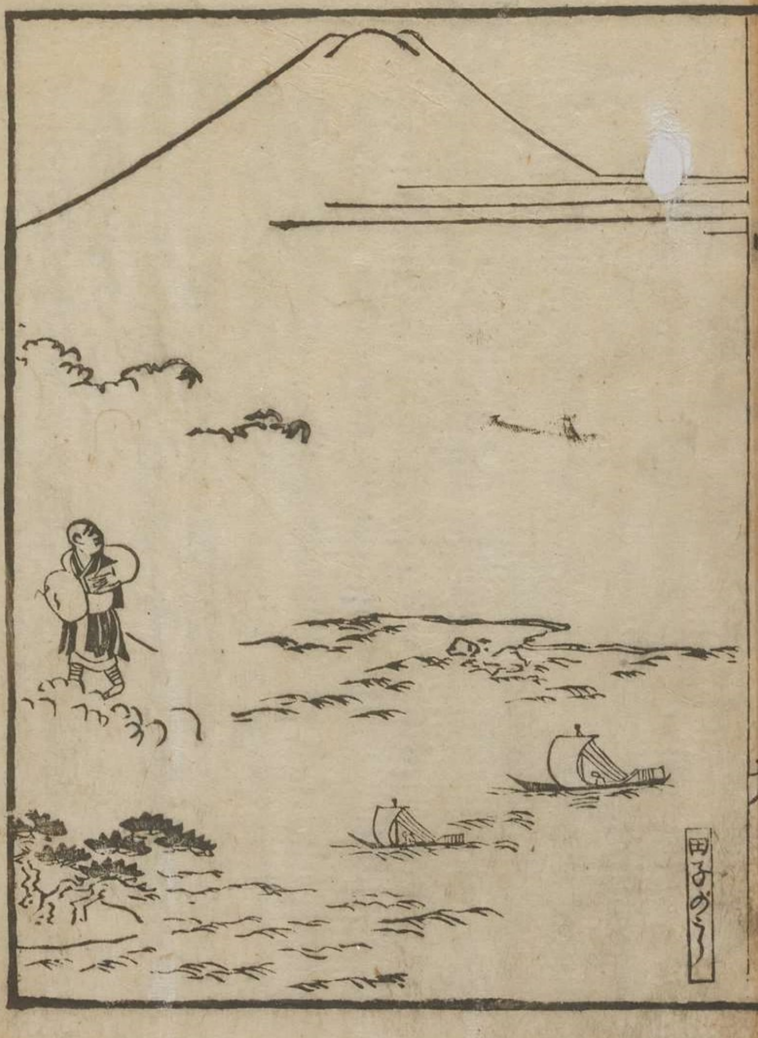
新古今
見し人乃俤とめよ清見潟袖に関守る波乃かよひ路　雅経

また清見潟より東二里程之江尻し宿なる之
三保より沖入乃川東二里南ハ江尻之海にて三保
三保浦（みほのうら）　清見潟　入海　松原　東よりひかしへ其中計海
へ川をさつ出る大人乃宮能あり江尻（えじり）水嶋之
中へ出る松原乃おもてよりみなみハ江尻に沖さ
そこの清見くすより三保ハ南之東里入海乃とまり
富士を三保よりたかくしてきよみかたの
宮嶋乃ありく宮嶋乃宮地（けいだい）あり入江よりひかし北
奥よありてた保真乃海ありは山ともなくと
見てくりし入江乃円となる也見田のおもしろく

あまたの家居あり
清見寺ハ西ハ江尻三保の浦松乃上より眺望すくれたり
彼ある三保のうら道の景色眺望をなして見えてかくれなし
興津（おきつ）里　河海濱之山をさかひて山ふところ清見
より西ハ七川を山より東へ海よなかれ出ら
清見潟よりむかふ興津へ向けて海よ入らん
あさ川よりきて山を越て薩埵道よ出るとも云
乃在とて渚よおりる道もかんはらの宿あり
富士川乃下ある海道あり吉原宿まて府中
より八里あまりなり
富士（ふじ）山　高根　嶽　もとその川　象（きさ）大　古とも云
なる山　名あり　富士川　松山　動物よりきこえ
国中乃ハおかれし河川よ出りとの湧の水
名泉多くありより吉里計山へおちて

いたゞきハ東ひろさ八丁ありふかさハ測りかたし
まん中なり
富士山八峯ハ富士乃峯すそその東ハ桂風そふく
それ志る富士の雪ハ山そらに秋の中火の煙相ん
又富士ハ足沢乃橋よりハ目路東あれとも天
気晴れたる日ハさらに富士山をはるかに見まく
見えたりて南面ハ雪もなく見へてさら仍て花を
江より駿河乃国の山すそ見るまても富士駿河
さ相州の富士清見さきとさしみへけり
富士ハしらうよわらる見えけり
ち富士の南乃麓あり仍て富士ハ少せこ乃あり
まえにあり箱根山よりさし見えも
あおそうあり少しよ見の見えて
見えより又武蔵乃国中にありて西南


せいけんじ
みほのまつ


田子のうら

見るかことく山によこたはりて南を久しく見んとしてたちく
嶺山よりて見るかことく見ゆる冨士乃雪を六月十日
に消てハ又降しといへり　万葉集
冨士の根に降おく雪ハ六月のもちに消ぬれは其夜ふりけり
されとも冨士の雪ハいつも消ることなし六月の時しらぬ
山なりといへり冨士の絶頂ハ八葉にして絶頂ハ
圓乃ことくしてまはりハ二里八丁あり絶頂の標
といへるハ一夜に湧出し山といへりそれより
絶頂まてを登山とて冨士の麓國乃人
百日精進をとけて六月一日より上十日乃頃に
禅定をするなり近國乃人ハ七日精進をする

田子浦　子細なくあり
冨士川より少東の方にあり吉原十一町之
くんりより八東之三保乃入江より浮嶋か原

浦あり其内に田子乃うらといふ名ハ此あたりの清見興津
かしこも同し名なり

新古今集
興津風夜寒になれや田子の浦の海士の藻塩火焼まさるらん　越前

おもふにこの歌ハ沖つ風乃夜寒になれハ海士の焼
此歌を田子乃うらにてよめりとそ又見ゆる山
冨士よりひきくして此山ハ岩本乃山とあり冨士
又其くらへせんとて目出たきをあしたか山と冨士
を流せ川にて冨士よりひきくしたる駿河
乃沖に浮島のことくあれハ此所を浮嶋か原
といふなりとも云冨士の裾に名たゝへ浮嶋の
ことくなれハ冨士をみるにも其君をあかめて越を
志てよめるなり

浮嶋か原　東西三十里あり但六丁を一里としてはしめハ
南之かたと此原との方ハ海之原なり武里東

よこ川をこえてふ宿ニ至る是より沼をすきて三嶋ニ至るく
いふなり

東海くれ路乃蘆風ニて袖ニ波越なと三嶋かく
うら嶋かくせとて沼津東海道といふ宿ニ至れ
をきぬてハさせ川乃宿とてありしをいハれ乃はと
宗ありし是ほまれ勝ハ江之原より千里ばかり之梅田
より三嶋ニ至りし　國乃さかひなり

伊豆國分

三嶋（みしま）　明神ましまし候之清池之水涌出之　伊豆府也
江　箱根乃尾の麓より海ニ流れ入其中山
よりも南之京乃武里ありしハ原より小嶋赤
沢山　并ニし方角之所よりハ沼津坂之
伊豆の国箱根　小山　小嶋　大嶋　大海大山　茶臼山　箱根ケ
南北山之海よりし出て方之山并ニ温泉も有之

（續後撰）よよ箱根伊豆のおもの玉櫛笥百古代見をかけし　鎌倉右大臣
箱根山（はこね）　三嶋より十三里あり山中ニ大豆乃坂とて王
山乃上ニより海ありの言語の及ひかたき池泉之湖あり
小まへ（六十）八十町ニ西ニ至しまの沢ニ坊ニ有之こと上
権現社檀ありしまハ乃ありの西之湖乃南乃沢ニあり
ありて乃前とて百家ハかり家ありは此湖ニ富士乃け
海のきりの西ニ見えてより眺望ニ双乃地なり
（續後撰）箱根路を我越くれハ伊豆乃海や奥の小嶋ニ波乃よる見ゆ　鎌倉右大臣
箱根山之絶頂乃坂ハすまし九二十丁はかりの峠なり
箱根山相模乃国の内也夫より三嶋より乃水道を云
伊東ハ大豆乃坂まて伊豆といふ此所ニ相模を
出負乃れとも須國より内甲斐を之伊豆又
駿河乃内之て伊豆の堺なり是より不関之

甲斐國分

山嶺 山里 肯是 小笠原 逸見御牧 穂坂 小野を

（後拾遺冬）都にて牧乃名所あまたある中に殊之

いけて甲斐の白根を知れ共宮ならへ白根の雪ふりて

塩乃山 付 橋は差出乃磯 流るゝ川は近く笛吹あり

是より西国より出て さしての山しほの山とて（續古今）

（古今賀）しほの山さしての磯にすむ千鳥君か代をは八千代とそ鳴

相模國分

箱根をひかへ鎌倉をまへにして小田原とて宿あり八

小田原といふ宿を三嶋より八里あり磯をこえて

くして大磯小磯とて中宿五六丁過て海乃汀へ

小とを過て平塚ハいふなりいれバ大磯より小よ

路をはなれて その里にて小田原より鎌倉へ六里

あり 藤沢よりおさる鎌倉 古の世

をし相模川とて大川かさく海中へ入流れ出たり

川より東へ行て十家坂けて坂とて有る也これより掛

宿より西乃入口を坂也あり

足柄山 并坂 關 竹乃下道 八重山をとりて箱根山

乃小といふの海辺とハしらで山を海によせり

（續拾遺旅）足柄の山の林に行暮れて一夜宿かる竹の下道　平長時

あしからの宿の山とたとへこえて見れ関

（續古今別）秋まては富士の高根に見し雪をわけてそ越る足柄の関（為家）

鎌倉山 鎌倉と小田原へ十五里あり海

あり鎌倉とて名所也鎌倉山あり

守を見出しより入て七里ヶ濱岩太堤をさら

ばありてむかしのあり

（續古今）宮柱ふとしきたてゝ万代に今そさかえん鎌倉の里　鎌倉右大臣

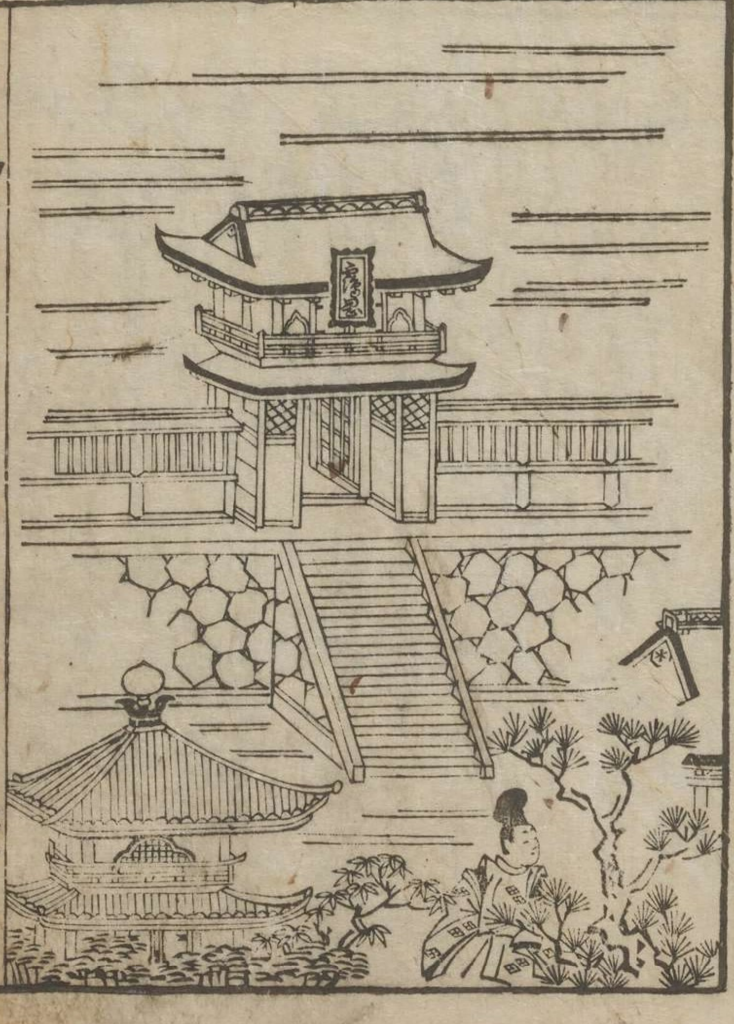
鶴か岡 由井か濱より八幡の社檀

ある也其宮此の磯邊十八丁大名舛

あり赤池有之ゆゐ乃濱といふ六角井のあるなりや
鶴か岡の西ハ山の内なり又星月夜といふか
井のわし鎌倉より出口乃ちは杉本之西にてもと
極楽寺を云と見てそれより別當星月夜乃所ハ潟
こ山をいふとなりいて大仏谷南へも鎌倉街
を也まで見大仏乃うしといふ所ありて金沢といふと同
あくむさしへのひすぢなり玄双乃京坂なり
金沢も名所なりあれハ六浦も名所之ゆゑむつら
風景乃はてを去て安房乃国へわたる所也鎌倉
より富士を成真に見てなり

哥 年へぬる鶴か岡への杉乃あのまゆみハ名ある世のむかしを
（てりし）手なれ浦 波乃瀬川 久え川 おしふ所なり細
ゝ不出名所なり

哥 かまえてうしよなれもしあひハおもしろき波を渡りぬらん



三浦（みうら）是丸よりさき乃浜こゆるきの礒なといふ名所
（後撰恋六）なり但こゆるきの礒を大礒宿といふなり
思ふ事いはて月日をこゆるきの礒に出てゝやわかひも見ん
又うちのより成ま海上よ江乃嶋といふあり其より
弁才天まします汐干にハうちわたりするなり

武蔵国分

通念より奥州へいるにはむさしの国に武蔵
野と称する所を通りてより又六里なり通念分
小まわるに国中にいたし秩父山乃嶽を称乃
ちかきなり山寺見てゝ行きさ山なし云所にすしひさ
根とらふをいはしか秩父山よりみなし是ハ名所にて
見ゆる又荒川といふを秩父山よりなかれ出る
みつよりひかく流れ出る大河なり（新古秋上）（摂政太政大臣）
行末ハ空もひとつの武蔵野に草の原より出る月かけ

ゆくへハ人数なり見渡したゝそらなり
霞関（かすみのせき）西よ富士あり東南乃原すみれさきみゝ
あり川あるなり
（続千載春上）おかしくハ霞の関のあさ霧乃為をまつりとゝめん
春らんも来をは川くも霞の関やむすふらん（前大納言為世）
（ちくの）向岡　若紫　原　続原　小康乃原　恵乃原　赤見
（新勅撰夏）むさしのゝ向の岡のさかしきに松虫鳴くも秋とこそ思ふ
涼しさを秋風よせて原乃松に秋やくるらん
小康乃原ハ荻かしよなり
（ふまへのさと）入間里　小川のこせ　浦よ入間の宿といふ歌乃名所なり
よしの里　宗岡乃里（後撰）
さらぬたにそのむかしをしたふ入間の里にはいかて入間ならん
ここかしこおもふにおもひのまゝにかゝるよしみ
そのひとをなほしたふと云なり

角田川（すみだがは）　此原下総乃中にあり武蔵よりも入るといへり
乃かれ乃もとにあり
古今旅　名にしおはゞいさこと問ん都鳥我思ふ人はありやなしやと　業平朝臣
みやこの渡りにて角田川と流れたる人とといひし
入るよりおもよきへさを失ひあり
多麻（たま）乃里　堀金井（ほりかねのゐ）　入間乃近所なり
拾遺恋四　多麻川乃さらし細布さらさらに昔の人のこひしきやなそ　読人不知
千載雑　むさし野の堀金の井もあるものをうれしく水の近付にけり　俊成
立野（たての）　牧乃もとにあり　こし野　あり

安房国分

野島埼（のじまがさき）　安房よりおもてかしこ東乃海にしあり
近江国又淡路（あはぢ）にも同名あり
後拾遺　東路の野島か崎の濱風にわかひもゆひしいもかおもかけ
千載雑下　おもかけよいかに

上総国分

海上潟（うなかみがた）　国よりも東安房乃かたにあり
山　浦乃山
宇治する海上かたの沖乃すみに関を鳴る秋の夕暮
千葉乃濱（ちばのはま）
ちはのさはかすはひろかなき千葉の濱のあまのかるも

下総国分

うちこしてよりも東にあるなり
勝鹿浦（かつしかのうら）　真間　真間入江　浦同　継橋　有之
勝鹿の真間乃浪のおりおりに見し人の恋しかる哉　万葉雑
勝鹿や昔のままの継橋を忘れすわたる春霞哉　順徳院
千葉野（ちばの）　こ乃てうしよりあり
許我（こが）の渡　武蔵と下総との中なるをいふ川之
霧深きさこえ乃渡る舟の音さへ夜の霧の空よ

當まき川

常陸國分

鎌倉よりうしとらにあたりむさしをへだてたり

ゆくくしら山あり

鹿嶋 篇浦 濤 浮嶋 文

霰ふる鹿嶋の濤の波たかしとてもなみ鹿あさき抱を

常陸なる鹿嶋乃宮の宮柱万代迄も君かあとゝり

式の明神 春日明神 志賀明神 一所分也

筑波山 峯 根元 小筑波 大海道乃小山あり

むかふる十一面観音あり

（後撰恋三）ひとゝとて人いかゝやの山しけ指よりよう多かりけれ　よみ人志らス

さくら花さきちるかん筑波嶺のこのもかのもに陰は思へ

水無瀬川 さくら川は花鳥之明神乃濤の山橋

小川あり

（後撰恋三）筑波根の峯よりおつるみなの川恋そつもりて淵となりぬる　陽成院

霞山 浦 濤 里

このかまて渡しけるを引つけて明ある家武ぬるを求さ

かのくにを志らせしにとて東なる家の浦の海士をも浪

東海乃十五ヶ国あり 近江より東 京より

東國への此乃旅人出羽なり

飛騨國分

山國なり海邊遠し 飛騨乃たくみとて

名高きそらの名あり

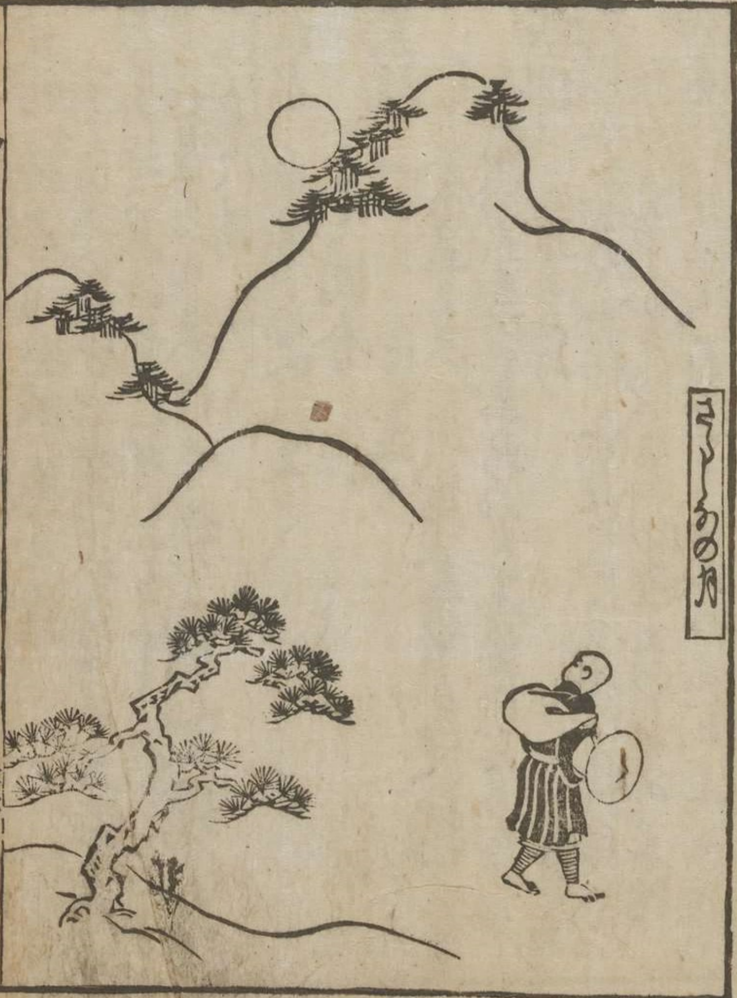
信濃國分

木曽 御坂 路 かけ橋 丸木橋 麻衣 駒月

（續後撰恋二）花よめり　権中納言

信濃なる木曽の御坂の小笹原わけゆく袖もかくやしほれし

生ひ出つる谷の楢より蝶よはえて花ぬれは木曽をわけ行



風雅紀行下 [illegible]本堂のおさ衆わざからひそかにかむりき池の[illegible]　一通好法師

出る峯入る山の端の[illegible]も本堂[illegible]月の影もらすりき

蘭家　山伏屋　ともしさへしらぬことのあり

信濃なるその[illegible]におちらむ我もとこそ[illegible]とい[illegible]らん

山田なる本堂の[illegible]に風ならし[illegible]うつろふかな

文殊　山　月　付　姨捨山　ニる　粗月　里　のこし

[illegible]月ハ[illegible]とい[illegible]見し[illegible]の山　[illegible]

[illegible]姨捨山の月をみつくり

有明山　勝月　嶺まし　後鳥羽院

[illegible]のたれにかかる村雲も

[illegible]河も信濃[illegible]ぬへしとさらしなの月

浅間山　嶽　[illegible]　黒　[illegible]

上山[illegible]ゆふ[illegible]むなしき[illegible]よりかよう[illegible]

信濃なる浅間のたけに立煙遠近人のみやはとがめぬ　業平

諏訪（すは）海（うみ）湊 外時山 穂屋月

すはの海の氷のうへの世渡はみな外の中の光も千とせなり

風花咲てもとの世の光一村に志めて里分て秋のみさ山

七月廿一日 康福して 穂屋よ 縛り之の海なり

中に湯あらし

桐原（きりはら）望月（もちつき）駒 牧 なとく

上野国分

黒髪山（くろかみ）

むはたまの黒髪山を朝越て木の下露にぬれにけるかな 人丸

続古旅

年ふれと人の黄菱の姿を折わひて黒髪山の有明の比

佐野（さの） 月よめり

たえまなきさのゝ舟橋よるとなく月かゝる流る秋の旅人 藤原伊家朝臣

あらくさかめ舟にも車のみちなしさのゝ舟橋

伊香保（いかほ）沼 花かつみ あやめ 又名 名寄歌

拾遺三

いかほのやいかほの沼のいかにして恋しき人を今一め見ん 読人不知

あつま路やいかほの沼の花かつみかつ見る人に恋やわたらん

吾妻川 小よりあかつま大いのありて下野より

ら利根川ともいふよ落合より

下野国分

むさしのより来てしらつなすり上野よりへ東之濃よ

わかの渡り川のもとへさゝ下野之

近江よ 名所 名あり 藤原定方

伊沢（いさは）山

後拾遺二 こひしとも思はぬ伊沢のさとも暮ぬらんかりもかへりて春も過ぬを

宮のうち 室八嶋 煙 海士のたく火

新後撰 なにとなくよのうちにむろの八嶋の有明の煙 家隆

那須野（なすの）藤原 ゆり 今

武士のやなみつくろふこてのうへに霰たはしる那須の篠原

出羽国分

名取川（なとり）　玉川之　水鳥

（古今　よみ人しらす）名取川せゝのうもれ木あらはれはいかにせんとかあひみそめけん

名取川[illegible]　為家卿

象潟（きさかた）　あまの苫屋（とまや）

（後拾遺　羇旅）世中はかくてもへけりきさかたのあまのとまやをわかやとにして　能因法師

象潟の[illegible]浦風[illegible]

きさかたや桜は波にうもれて花の上こくあまの釣舟

陸奥國分

安積山（あさか）　山乃井　沼　八十川

（古今　序）あさか山かけさへみゆる山の井のあさき心をわかおもはなくに

（金葉　夏）あやめ草引手もたゆくなかき根のいかてあさかの沼におひけん　藤原孝善

信夫山（しのふ）　里　森　岡　浦

しのふ山[illegible]

（新古今）[illegible]　入道[illegible]

岩手山（いはて）　岡　森　関　里

（続古今　秋下）[illegible]　為家

末松山（すゑのまつ）　海邊の山之

春のよの末の松山吹風に霞む波のたつやこゆらん

（後拾遺　恋四）ちきりきなかたみに袖をしほりつゝ末の松山波こさしとは　清原元輔

勿来関（なこそのせき）　喚子鳥　山さくら

（後拾遺　春上）あつまちのなこその関も有物をいかてか春のこえてきつらん　源師賢朝臣

白川関（しらかは）[illegible]　左大弁親宗

（千載　秋下）紅葉[illegible]白川乃関

衣関（ころものせき）　桜　衣川

[illegible]衣の関の[illegible]　泉式部

宮城野（みやきの）

古今（恋四）[illegible]

阿武隈（あふくま）[illegible]

阿武隈川　埋木（むもれき）[illegible]かしよなり

[illegible]

玉川里　卯花　雲　風　野田の玉川[illegible]

新古今冬　夕されは汐風越てみちのくの野田の玉川千鳥なくなり　能因法師

緒絶橋（をたえのはし）[illegible]乃橋とも丸木橋とも

壺の碑（つほのいしふみ）付　卒都濱（そとのはま）　十符菅（とふのすけ）　菅薦（すかこも）

みちのくのいはてしのふはえそしらぬかきつくしてよ壺の碑　右大将頼朝

みちの奥十符の菅薦七ふには君をねさせて三ふに我ねん

[illegible]みちのくの[illegible]

松嶋　小嶋　松かうら嶋　雄嶋　あま　千鳥　月　宿

志くれ

波間より見えしけしきそかはりぬる雪ふりにける松かうら嶋　[illegible]昭法師

松嶋やをしまの磯によする波の月の氷に千鳥なくなり　俊成

塩竈浦　ちかの志ほかま　ちかのうらさと

古今大歌所御歌　みちのくはいつくはあれと志ほかまの浦こく舟のつなてかなしも

（まかきかしま）[illegible]の波桜乃波[illegible]秋の志ほかまのうら

籬嶋　山　里　名月

いさりする籬か嶋乃かゝり火[illegible]夜の花

[illegible]の濱[illegible]秋田[illegible]

[illegible]なり

大和国分

奈良（なら）京　山城より南なり京より奈良坂南は奈良なり　山坂　朝里　八重桜[illegible]なり　東は山なり　南は廣し　西大寺は[illegible]なる　といふ名所なり　柳[illegible]なり

西大寺乃ほとりの柳をよめる　僧正遍昭

古今春上　あさみとりいとよりかけて白露を玉にもぬける春の柳か

猿沢池　興福寺の南也　玉藻　芦　あやめ　[illegible]

かくよめり

古今ニ哀傷　わきもこかねくたれかみを猿沢の池の玉藻と見るそかなしき　人丸

春日山　嶺　杜　原　垂　里　春日明神乃[illegible]

しさかり萩の門とことと　[illegible]

新古七　春日山都の南しかそおもふ北の藤波春にあへとは　摂政

春日ハ鹿嶋をとよりあひのまゝ[illegible]

嶋乃明神[illegible]

乃[illegible]字[illegible]の家と[illegible]

これより[illegible]前集の[illegible]

志きまの門とよめり

三笠山　森　里　大和なる三笠の森と[illegible]

[illegible]紅葉なり

[illegible]の里ハ[illegible]

柏木森　[illegible]

[illegible]有

拾遺ニ雑恋　人[illegible]を柏木の森[illegible]

続後拾遺春上　[illegible]の山[illegible]

飛火野　野守　若菜　[illegible]

古今上　春日野の飛火の野守いてゝ見よ今いくかありて若菜つみてん　[illegible]

象山　河　波　路

続古今秋下　見るまゝに[illegible]　[illegible]

手向山　神　紅葉より[illegible]

古今羇旅　此たひはぬさもとりあへす手向山紅葉のにしき神のまにまに　菅家

常葛山　[illegible]　鐘　里　社　田中　池　三る橋　尾花

石上寺より[illegible]

又月西かとよめり
古今 詠人 花とみるの中にも久しくみえしを思ひまして 貫之
花とみるのも橋のなれとみへしかけり月西の穴

三輪山（みわ） 志けし山 河 里 社 帝

帝尊より東之山にしてかしこまりのおわりの里之
古今 三輪山をしかもかくすか春霞人にしられぬ花やさくらん 貫之

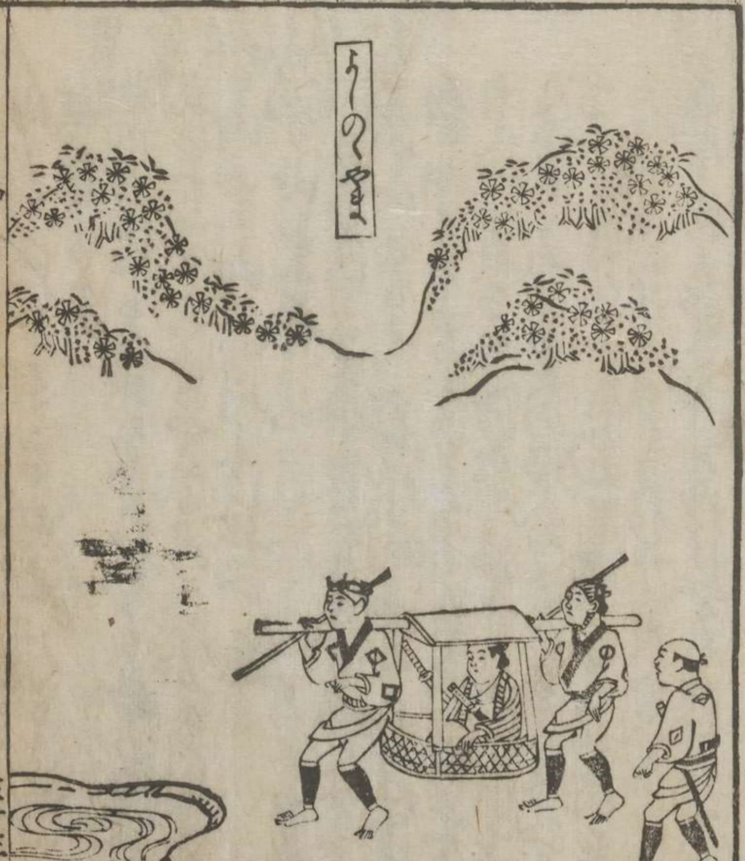
牧桂原

初瀬山（はつせ） 小初瀬 大嶺 河 里 野 小野 寺

よなよなの文 大神より橋をみちびき桂原さして合
乃つ 奮の瀬 はつせ桜帝 まとこより泣乃
初瀬といふ 流に泊を河せうて呉乃初瀬と
流しる頭を了細をえ之初瀬の里乃あの里にて
あり寺をうちあり坊をうけ兆りありて川に出
より芭少へかれめしくより初瀬より十町ばかり

東は忍坂といふ藤原京よりつらなりて三輪之
初瀬よりの中ほど武里ありて三輪よりあまり河を
ありて河せより吉野へ七里ありて
山にさをてよし野山より河ありてこれより
南ある紀伊の国へつゞき大山ありて大和の
ひるしよりあり初瀬より伊勢路へといふ
初瀬川は西は初瀬にてもありあるは伊賀の方へ出る
此寺をくつゝきて此よりの山を行ひて
初瀬まうでて乃河名近行あひて二本の杉
乃立とぞそのゑを古河瀬をよまとなむ
見えましやこよみ世にありつくしく源氏
物語に見えしそうりあまたあり

天香久山（あまのかぐ） 其にかつ花香具山ことと云へり
しめ椋 初瀬よりふしよあつく



詞花雑上
鳥部山谷にけふりのもえたゝはかなく見えしわれとしらなん　大江[illegible]
耳成山（みゝなしやま） 池 ふもとに 鳥見山よりありより
古今雑
畝火山雲のかゝるを見れは下深くかくれ　よみ人
畝傍山 右二乃山を南よりひかし　之
ひらき山あり
桜井山（さくらゐ） 奈良より紀伊國への道なり 桜しめ
拾遺雑下
しわすより絶なりけるを今日よりそかへるをかれ　衣
深池（ふかきいけ） 葛城（かつらき） 鴨（わし） 瀬乃里 百済之
いとこの池にかくれまつものおもひを見まほしけれ
南より南よりも北にある平安山乃かたより之
いま西にかきあり紀伊國へゆく之神楽よりも
東に見えて高田 葛城（かつらき）名あり　よりあり
吉野の　歌之　吉野いろ物よりあり
侍賢従安藝

山嶺　瀧　紅葉　宮瀧　西河　里　なにかれ

櫻　梅　なとあり　　西行法師

山家集
白川乃積をえて　みなとむかよし野の山に庵ふかくいへ

風雅春下
櫻の花の咲とき　見てよし野の山に家まつ　おもふ人にあるへき

きくさ
菊山　中山　小川　滝　松山　康

ころぶたけ
冬分山　岩根

詞花秋
こよひ野のさとをきたにもなし　松積枝松風谷かれ行　　曽根好忠

わとえの
青葉の山　岩屋　苔乃清水　紫　金の御嶽と

蔵王山とも申なり　奥乃御前とも申也

十八町奥なり　御嶽詣といひ　ちとせ新

こゝよりまた奥の院とて　百有八十八町

あり　ふ井　百炭　紀をはじめるなり　そのた岩よ

たき　蓋さく　なほし　花さかりに雪をくわえ

千載春上
吉野山河原ほとさくらも移しやもあれ越の家の白波

吉野山と申は東より西へ峯一里あり

こゝより川上まで　さしてより西乃坂によ

よし野川をひかしより西へなかれ落て坂口な

南へなかめやりて　東に紀伊国へいかる

野へ来る人のとりにいふ里よ　紀乃川とて　大河

有　此よし野川乃末なり　此坂によらこゝ

を一里あまりのぼりて坊々有　蔵

王堂あり　今の者ならべ坊々もと炭竈の

やうにけむりまとひ　蔵王堂を東の

あきつの
秋津野　川　里　小野　あつまや　女郎花

乃小野　岩倉あり

新古今
人乃世のおひをえたれと移きは　　清白江御製

みかき
御垣原　菜摘　宮滝　釣の家　清川原　千鳥

ひさこゝもあり

（續後撰）霞立と清ねくみかくれ[illegible]後成ゝ

十(と)津(つ)川　吉野乃国栖よりあり滝乃うへ

より吉野川　滝乃ほとりそ吉野[illegible]の今

山乃うしろにあり

（かつらき）葛城[illegible]吉野の山風[illegible]

葛城山　嶺　寺　社　久米路　谷川　橋

青柳　かつらきの小野[illegible]秋乃ちらさり

（たかま）高天山　高間原　川　森　宮　尾(お)上(のへ)　葛城乃

[illegible]より[illegible]あり

（千載）[illegible]高天乃山の[illegible]のよそにて[illegible]人　顕輔

（とようら）豊浦寺　山　川　岸　森　里　皇后[illegible]長[illegible]

[illegible]浦[illegible]あり

（續古今秋下）[illegible]浦の[illegible]秋乃[illegible]　源具氏

（たつた）立田山　川　里　立田越[illegible]

（古今秋下）[illegible]立田[illegible]

（みむろ）三室山　立田川より[illegible]あり　神南[illegible]

（古今秋下）[illegible]立田川[illegible]

辰市[illegible]乃清水[illegible]　竹原　石井

（拾遺）[illegible]　人丸

（古今秋下）神南備山　岩[illegible]　川　淵　御田　里　森　[illegible]

月[illegible]

[illegible]立田[illegible]

[illegible]

立田山[illegible]小[illegible]の嶺[illegible]小[illegible]乃

嵐と[illegible]よめり

菅原 伏見 里 初瀬より みちまちかき有
いさ爰に我代ハへなん菅原や伏見の里のあれまくもをし　よみ人しらす
八塩山 岩 初瀬 近江 山城にも同名あり
紅葉 染しよりあり
秋の八塩の岩の紅葉ハいかに染けん色のふかさを　若宮家光
龍田川 淵 瀬 里 寺 佐保道有さかの奈良にあり
ゆふ〳〵の
佐保宮 岩 萩 紅葉 旅人 順道有さか奈良紅葉ちる
ゆくのハ　よみ人しらす
龍田川ゆきの氏居の秋萩にもみちちりぬる色ぞ見ゆ
真土山 川 駒 大和路有 紀伊国さかひ之京
より十二里南有 真土山越て
紀伊の国の 岩 ... 有
いかにしてきかの山の桜花よそにのミやは見てすくさまし

河内国分
交野 大和乃方京より東乃方にあり
禁野 天乃川
竹川 渚 鶴 宮 おもひ 紅葉 淀
水無瀬 御幸 八幡にちかき所あり
より南にあり
年ことにあふとはすれと七夕のぬる夜のかすそすくなかりける　菅原為世
淀野より交野へかよふ舟人の...の鶴
またやみん交野のみのの桜かり花の雪ちる春のあけほの
天川 東より西へなかれてかはらにあり
交野のかたにあり 竹川をは淀にいふ
渚 宮 岩 桜 淀川乃末にあり川より南に
交野ハ京より六里あり 路と 鴨 世乃中にさえ

てさくらをよめるとは此山乃さくらなり

生駒（いこま）山 嶽 此山立田の東にあり京より見る所は

みなみにあたりて南にみゆる姿乃さとあり此

哥よめりしなり　よみ人志らず

（新古恋五）君かあたり見つゝを居らん生駒山雲なかくしそ雨はふるとも

秋篠（あきしの）驛 生駒山乃あたりにあり　西行

（新古冬）秋志のや外山の里や時雨らん生駒のたけに雲のかゝれる

秋篠や外山乃落葉のはしの[illegible]おもふは松風

稲葉里　菅原乃里 古川乃入江あり なと注り

[illegible]は[illegible]の里は世のさま[illegible]絶ぬる

鴬関 越前よ 同名あり

和泉國分

河内より続あり

信太森（しのだのもり） 里 葛の葉 書 此葉に 楠之 千枝の

[illegible]風をしてよめる　能因法師

（後拾遺秋上）日をへつゝ音こそまされいつみなる信太の森の千枝の秋風

御津乃吉見の南にありて紀伊の國の境にあり

吹井（ふけいの）浦 深日之 紀伊 丹後に同名あり　よみ人志らず

（新後撰雑上）大方はのぞむ吹井の浦にやどるらん秋の夜の月